

RIKEN TECHNOS

リケンテクノスグループ
RIKEN TECHNOS GROUP

CSR 報告書
Corporate Social Responsibility Report

2018



リケンテクノス株式会社

編集方針

リケンテクノスは2002年10月に「環境報告書」を、2005年よりこれを「環境経営報告書」として、環境に主眼をおいた企業としての取り組みと成果を公表してまいりました。2007年度からは社会的側面を含め「CSR報告書」とし、企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)の観点からリケンテクノスグループの経営理念実現に向けた取り組みと、その成果としてどんな価値を生み出しているのかをわかりやすく報告することを心がけています。

「CSR報告書」の第12号となる本報告書の特集では、リケンテクノスグループが製造業の大きなバリューチェーンの中で、どのような役割を担い課題に取り組んでいるのかをご紹介します。「すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して」リケンテクノスグループが取り組んでいる内容をご理解いただければ幸いです。

● 報告書の対象範囲

報告対象期間

2017年4月1日～2018年3月31日

なお、本報告書には一部2018年度の活動内容も含んでいます。

報告対象範囲(所在地には16～19ページをご覧ください)

本報告書における環境報告の対象範囲は、リケンテクノス(株)およびそのグループ会社下記19社です。項目によってはグループ会社を含まない場合もあります。

対象連結子会社名

- リケンケーブルテクノロジー株式会社
(旧:進興電線株式会社)
- 株式会社協栄樹脂製作所
- リケンテクノスインターナショナル株式会社
- リケンケミカルプロダクツ株式会社
- リケンファブプロ株式会社
- RIKEN (THAILAND) CO., LTD.
- RIKEN ELASTOMERS (THAILAND) CO., LTD.
- PT. RIKEN INDONESIA
- 上海理研塑料有限公司
- 理研食品包装(江蘇)有限公司
- RIMTEC CORPORATION
- RIKEN ELASTOMERS CORPORATION
- RIKEN VIETNAM CO., LTD.
- 理元(上海)貿易有限公司
- RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL KOREA CORPORATION
- RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL VIETNAM CO., LTD.
- RIKEN AMERICAS CORPORATION
- RIKEN U.S.A. CORPORATION
- RIKEN TECHNOS EUROPE B.V.

報告対象分野

本報告書はリケンテクノス(株)およびグループ会社の経営・社会・環境に関する取り組みを報告しています。

● 参考にしたガイドライン

本報告書の構成については、以下を参考に作成しました。

- 「環境報告書ガイドライン(2018年版)」(環境省)
- 「環境会計ガイドライン2005年版」(環境省)ISO26001

● 持続可能な開発目標(SDGs)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

持続可能な開発目標(SDGs)とは、「Sustainable Development Goals」の略称です。このSDGsは、2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国によって採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられている持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットから構成されており、2030年において世界のありたい姿を示しています。リケンテクノスグループもこのような動きを参考にしつつ国際社会の一員として持続可能な社会を目指す取り組みを強化してまいります。

RIKEN TECHNOS GROUP Corporate Social Responsibility

表紙について

リケンテクノスのコーポレートマークと、2018年4月より社名変更となったリケンケーブルテクノロジー株式会社(旧:進興電線株式会社)のある埼玉県入間市に咲き誇る茶の花を融合したデザインにいたしました。

コーポレートマークは2001年の創立50周年を機に社名変更と同時に一新したもので、RIKEN TECHNOSの“R”をベースに、コア事業であるコンパウンドとフィルムのイメージを組み合わせ、信頼感を表し、未来へ羽ばたくしなやかな翼の形を表現しています。

リケンテクノスグループは、持続可能な社会の実現をステークホルダーの皆様とともに考え、行動していきます。



● 発行時期

2018年9月(次回発行予定 2019年9月)

発行経歴

年度	発行年月	名称
2002	2002年10月	環境報告書
2003	2003年9月	//
2004	2004年10月	//
2005	2005年10月	環境経営報告書
2006	2006年10月	//
2007	2007年10月	CSR報告書
2008	2008年10月	//
2009	2009年10月	//
2010	2010年10月	//
2011	2011年10月	//
2012	2012年10月	//
2013	2013年9月	//
2014	2014年9月	//
2015	2015年9月	//
2016	2016年9月	//
2017	2017年9月	//

Report 2018

目次

編集方針	2
リケンテクノス ウェイ	4
TOP Message	6
特集	
バリューチェーンで果たす役割	10
リケンテクノスグループの概要	
リケンテクノスグループ概要	14
国内・海外ネットワーク	16
製品のご紹介	20
コーポレート・ガバナンス	22
社会性報告	
お客様とのかかわり	24
株主様とのかかわり	27
お取引先様とのかかわり	28
地域の皆様とのかかわり	30
従業員とのかかわり	38
環境報告	
環境管理活動	44
活動結果の概要	46
有識者の意見	53
編集後記	53



RIKEN TECHNOS

リケンテクノス ウェイ

RIKEN TECHNOS WAY

創業当時から引き継いでいる「ベンチャー精神」こそ、

リケンテクノスの強みであり、「リケンらしさ」です。

この「リケンらしさ」をもとに経営理念である「リケンテクノス ウェイ」は策定されました。

ミッションにある「チャレンジメーカー」という言葉は造語ですが、

製造業という意味でのメーカーという他に、

挑戦して何かを創り出す人という意味もこめられています。

未来の飛躍のために、これからも常識にとらわれず挑戦し続けていきます。

ミッション

“使命・存在価値”

私たちは科学の力で
豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです。

独創的で卓越した、樹脂素材の配合加工技術で、
企業と人と社会に新たな価値と喜びを
提供し続けます。

コア・バリュー

“基本的価値観”

信頼しあい貢献しあう
新しい価値を生み出す常に挑戦し
成長する仕事を楽しみワクワクする
共に解決し共に喜ぶ

リケンテクノスグループ企業行動規範

—持続可能な社会の実現のために—

当社および当社子会社(以下、「グループ各社」)は、
リケンテクノスウェイの実践をとおして持続的に成長し、公正かつ自由な競争の下、
持続可能な社会の実現を牽引する役割を担っています。
そのためグループ各社は、国の内外において次の10原則に基づき、関係法令、
国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たしてまいります。

1. 社会的使命

イノベーションを通じて社会的に有用で安全な製品・商品を開発・提供し、
持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図る。

2. 公正な事業活動

公正かつ自由な競争ならびに適正な取引、責任ある調達を行う。また、政治・行政との健全な関係を保つ。

3. 公正な情報開示・ステークホルダーとの建設的対話

企業情報を積極的、効果的かつ公正に開示し、企業をとりまく幅広いステークホルダーと
建設的な対話を行い、企業価値の向上を図る。

4. 人権の尊重

すべての人々の人権を尊重して事業活動を行う。

5. 法律の順守・国際規範の尊重

各国・地域の法律の遵守、各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習等に配慮した事業活動を行う。

6. 顧客との信頼関係

顧客に対して、製品・商品に関する適切な情報提供、誠実なコミュニケーションを行い、
満足と信頼を獲得する。

7. 働き方の改革・職場環境の充実

従業員の能力を高め、多様性・人格・個性を尊重する働き方改革を実現し、
健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整備する。

8. 環境問題への取り組み

環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、
自主的かつ積極的に環境に配慮した事業活動を行う。

9. 社会・地域への貢献

「良き企業市民」として、積極的に社会や地域に参画し、その発展に貢献する。

10. 危機管理の徹底

市民生活や企業活動に脅威を与える反社会的勢力の活動や
テロ、サイバー攻撃、自然災害等に備え、組織的な危機管理を徹底する。

経営トップの役割・責任

経営トップは、本規範の精神の実現が自らの役割であることを認識して経営にあたり、実効あるガバナンスを構築して社内、グループ各社に周知徹底を図る。あわせてサプライチェーンにも本規範の精神に基づく行動を促す。また、本規範の精神に反し社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たす。

● ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018

3か年中期経営計画

リケンテクノスグループは、2016年4月に3か年中期経営計画を始動させ、今年最終年度を迎えました。「ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018～すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して～」という経営方針を掲げ、5つの主要課題に取り組んでおります。リケンテクノスグループの製品は、世界中で自動車、家電、電線、住宅、生活資材、医療機器など様々な分野でご採用いただいていることから、「すべての生活空間に快適さを提供する」ことを経営方針としています。経営課題を一つひとつ解決していくことが、そのまま社会の貢献につながっていきます。そのために、あらゆるステークホルダーとさらに強固なパートナーシップを築き、リケンテクノスグループの社員も一丸となって、「ACT NOW! ACT TOGETHER!」のもと、課題解決に取り組んでまいります。

● 国際社会の一員としての責任

持続可能な社会を目指して

国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にある普遍的目標であるSDGs(エスディージェズ/Sustainable Development Goals)や環境省による「プラスチック資源循環戦略」など、持続可能な社会を実現するための取り組みがますます盛んになってきています。リケンテクノスグループの生産しているものは高機能プラスチック製品のため、使われている製品

は、産業廃棄物として分別され廃棄・リサイクルされるものが大半を占めますが、廃棄・リサイクルも視野に入れた製品開発と燃費向上などの環境負荷低減のための製品開発などを積極的に行い、国際社会の動きと連動し、責任を果たしてまいります。

すべてのステークホルダーの皆様と共に

将来にわたり実りある豊かな社会を維持するため、これまでもリケンテクノスグループは、お客様、お取引先様、従業員、株主様、地域の皆様などすべてのステークホルダーの皆様と共に歩み、社会の課題解決に努めてまいりました。リケンテクノスグループは、様々なかかわりを通じ、ステークホルダーの皆様と信頼関係を築き、今日まで存続・発展することができました。そして、これからもその姿勢を変えることはありません。本CSR報告書では、リケンテクノスグループを支えてくださるステークホルダーの皆様とのかかわりについて報告しております。是非、ご覧ください。

特集

本CSRの特集では、様々な製品が皆様のお手元に届くまでの「もの造り」の大きなバリューチェーンの中で、リケンテクノスグループがどのような役割を果たしているのかをご紹介します。すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指しながら、同時に環境負荷低減のための取り組みをご理解いただければと思います。

私たちは、持続可能な社会の実現に向け、これからもステークホルダーの皆様と共に歩んでまいります。今後ともさらなるご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員

常盤 和明



プロフィール

常盤和明(ときわ・かずあき)

1983年(昭和58年)千葉工業大学工学部卒、同年理研ビニル工業(現リケンテクノス)入社。07年米国リケンエラストマーズコーポレーション社長、11年コンパウンド事業部副事業部長兼コンパウンド営業部長、13年4月取締役経営企画室長。16年4月1日代表取締役社長執行役員に就任。
神奈川県出身、57歳。



2018年版のCSR報告書では、バリューチェーンについての特集を組んでおります。特集をご覧いただければ分かる通り、当社の製品の多くは、石油由来の樹脂を原材料としています。将来における石油枯渇のリスクを踏まえると、非石油系の原材料を元にした製品の開発は、リケンテクノスグループにとって大きなテーマのひとつです。現在は、石油由来の原材料に比べると非石油系の原材料は価格が高いという課題がありますが、地球環境をサステナブルなものにしていくためには、原料ソースを多様化させる、つまり非石油系の原材料について積極的に開発を進めていくことが不可欠であり、当社においても環境対応を意識した取り組みとしてSDGsに向けた活動につなげていく必要があると考えます。

また、日本が変革していくなか、リケンテクノスグループも「働き方改革」を強化していきたいと考えております。社員一人ひとりが効率よく仕事をこなすことが、「働き方改革」につながると考えております。現在の倍ほどのスピード感で進むために仕組みづくりが必要で、そのためには様々なツールやテクニック、ノウハウを活用していかなければなりません。会議のあり方についても見直しが必要です。上司と部下の垣根を越えて皆が闊達に議論できる「言える化」を目指し、より効率的な運営を目指していきます。そして、社員自身が先を読んで行動していくことが最も大切で、まずは周囲を観察し、情報をキャッチし、分析することから、先を読んだ行動に落とし込むことで、場当たりの対応ではなく、効率的な取り組みとなり、お客様との信頼関係も深まります。様々な場面で社員の働き方が変わることで、リケンテクノス ウェイの実践にもつながっていくと確信しております。

今後とも、変化を恐れずチャレンジし続けるリケンテクノスグループに対し倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

代表取締役会長 清水 浩

● 役員紹介

取締役



代表取締役
会長
清水 浩



代表取締役
社長執行役員
常盤 和明



代表取締役
専務執行役員
営業本部長
住吉 正充



取締役
常務執行役員
管理本部長
入江 淳二



取締役
上席執行役員
経営企画本部長
梶山 学之



取締役
常勤監査等委員
小泉 真人



社外取締役
監査等委員
早川 貴之



社外取締役
監査等委員
中村 重治



社外取締役
監査等委員
柴田 一眞

執行役員 (取締役兼務者を除く)



上席執行役員
技術本部長
兼 情報電子ビジネス
ユニットマネージャー
大谷 寛文



上席執行役員
品質保証本部長
田坂 道久



上席執行役員
RIKEN AMERICAS
CORPORATION 取締役社長
兼 RIKEN ELASTOMERS
CORPORATION 取締役社長
島田 高志



執行役員
RIKEN (THAILAND)
CO., LTD. 取締役社長
植山 俊一



執行役員
技術本部 副本部長
兼 研究開発センター長
杉野 等



執行役員
購買本部長
杉江 剛



執行役員
フィルム統括部長
兼 建材・建築材ビジネス
ユニットマネージャー
登坂 真史



執行役員
PT.RIKEN INDONESIA
取締役社長
佐藤 敏幸



執行役員
製造本部長
輿水 宏人

リケンテクノスグループ バリューチェーンで果たす役割

すべてのバリューチェーンを通じて、
リケンテクノスグループが取り組む重要な環境課題

CO₂排出量の削減

リケンテクノスグループが提供している価値

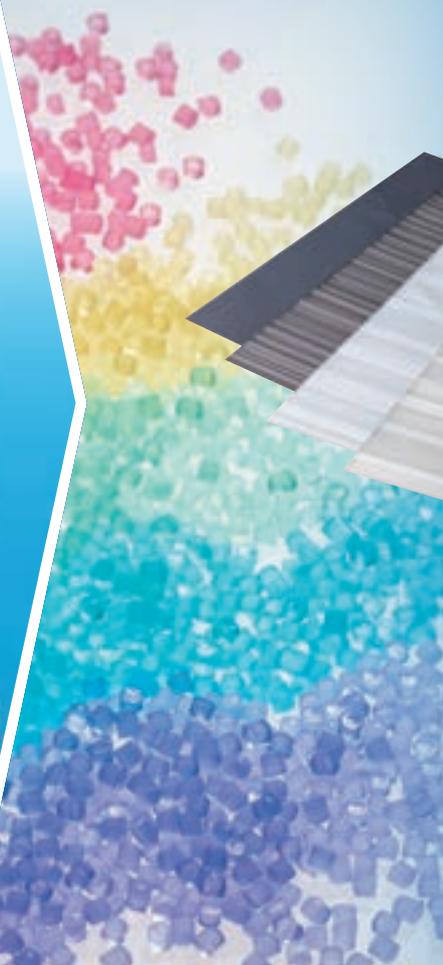
購買
研究開発
生産
品質管理
営業

- 各国での規制に沿った原材料を使用
- 環境リスクの低い原材料を使用した製品の開発
- 様々な原材料ソースを絶えず探索
- 植物由来の原材料を活用した開発
- 生分解性原材料を活用した開発

- CO₂排出量の削減
- 産業廃棄物の削減
- 化学物質の管理

石油会社等の 原材料メーカー

産油国から原油を安定的に調達します。原油には、様々なものが混ざっており、それらの成分を選り分け、石油化学の原料となるナフサを取り出します。
ナフサからは、様々なプラスチック原料が生み出されます。



リケンテクノスグループの製品は、中間原料として位置づけられます。コンパウンド製品やフィルム製品は、様々な部材へと形を変えて皆様の生活空間を支えています。本特集では、様々な工業製品のバリューチェーンを通じて、リケンテクノスグループが取り組む環境課題や、提供している価値をご紹介します。

産業廃棄物の削減

化学物質の管理

重要な環境課題については、中期経営計画の5つの主要課題の取り組み、各サイトの著しい環境側面、環境ISOマネジメントレビューの結果等から特定しています。

- お客様の要求性能に見合う製品設計
- 省エネルギーで加工できる製品設計
- ロスの出ない製造工程

- 要求性能を満たすリケンテクノス製品の提供
- より燃費を向上させる軽量化されたリケンテクノス製品の提供
- 加工が容易となり、省エネにつながるリケンテクノス製品の供給
- 加工時にロスが出にくいリケンテクノス製品の供給

リケンテクノス

原料メーカーから仕入れた様々な樹脂、可塑剤、安定剤などを配合し、コンパウンド・フィルム・食品用包装ラップなどへ加工していきます。

お客様のご要望に合わせて、カスタムメイドを基本として製品の設計を行います。リケンテクノス独自の原材料の配合技術、加工技術を活かした製品作りをしています。

成形加工メーカー

リケンテクノスグループが加工したプラスチック製品であるコンパウンドやフィルムを成形加工メーカーにて、色々な部材へと成形していきます。



リケンテクノスグループ バリューチェーンで果たす役割

すべてのバリューチェーンを通じて、
リケンテクノスグループが取り組む重要な環境課題

CO₂排出量の削減

リケンテクノスグループが提供している価値

購買

研究開発

生産

品質管理

営業

- 要求性能を満たすリケンテクノス製品の提供
- より燃費を向上させる軽量化されたリケンテクノス製品の提供
- 加工が容易となり、省エネにつながるリケンテクノス製品の提供
- 加工時にロスが出にくいリケンテクノス製品の提供

- 仕上がった商品は、消費者のもとへ届けられます。

最終組み立てメーカー

成形加工メーカーから仕入れた様々な部材を最終組み立てメーカーにて、自動車や医療器具や住宅などが出来上がります。



自動車や家電などの
組み立てなど

家具、住宅の
組み立てなど

消費者へ

自動車分野

様々な部材にリケンテクノスグループの製品が採用され、快適な運転と空間を実現することにつながっています。

EV化が進み安全に充電できるケーブルが不可欠となります。リケンテクノスグループは、ケーブル被覆材用に開発した高性能コンパウンドをご提供していきます。



リケンテクノスグループの製品は、中間原料として位置づけられます。コンパウンド製品やフィルム製品は、様々な部材へと形を変えて皆様の生活空間を支えています。本特集では、様々な工業製品のバリューチェーンを通じて、リケンテクノスグループが取り組む環境課題や、提供している価値をご紹介します。

産業廃棄物の削減

化学物質の管理

重要な環境課題については、中期経営計画の5つの主要課題の取り組み、各サイトの著しい環境側面、環境ISOマネジメントレビューの結果等から特定しています。

- 「すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指し」リケンテクノスグループは、開発を続けてまいります。

- リサイクルのしやすい製品の開発や販売を目指します。
- 廃棄する際に、環境負荷のより小さい製品の開発を続けてまいります。

電材分野

様々な電線の被覆材をご提供しています。インフラ、住宅、自動車など電気が欠かせない現代では、リケンテクノスグループの被覆材用コンパウンドが多く使用されています。皆様の暮らしを影で支えています。

医療ヘルスケア分野

医療器具部材用に安全な製品をグローバルでご提供しています。患者様に安心してお使い頂けるほか、医療従事者の作業負担を軽減します。

住宅分野

建築部材、家具用化粧フィルムなどにリケンテクノスグループの製品が使われています。快適な住空間のご提供を目指しています。

情報電子分野

ディスプレイをガラスからフィルムに変えていきます。それにより、軽量化や割れることを防ぎます。オンリーワン製品の開発を続けてまいります。

廃棄・リサイクル

リケンテクノスグループ概要

● 会社概要 (2018年3月31日現在)

社名 リケンテクノス株式会社
 設立年月日 1951年(昭和26年)3月30日
 資本金 85億14百万円
 代表者 代表取締役 社長執行役員 常盤 和明
 従業員数 連結 1,844名 個別 655名
 本社所在地 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地
 ワテラストワー

● 事業内容

リケンテクノスは創業以来培われてきた合成樹脂加工に係わる総合的な技術をベースに「コンパウンド事業」「フィルム事業」「食品包材事業」の3事業を柱に国内外で事業を展開しています。経営理念「リケンテクノス ウェイ」のもと、「科学の力のチャレンジメーカー」として、多様化・高度化するお客様や社会のニーズに適した高品質な製品・技術を提供しています。

コンパウンド事業

コンパウンドとは、ベースの樹脂に添加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性質を持たせた複合材料で、主に押出成形や射出成形に使われる素材です。

● 主要製品

塩化ビニルコンパウンド、熱可塑性エラストマー、導電性コンパウンド、制電性コンパウンド、バイオマスコンパウンドなど



フィルム事業

配合した樹脂の特性に適した製法で高品質のフィルム製膜を行っています。また、複数のフィルムを貼り合わせたり、表面に機能性塗料をコートすることによって意匠性や機能性を付与したフィルム製品を製造しています。

● 主要製品

建築内装用化粧シート、鋼板用フィルム、ポリエステル樹脂系フィルム、IRカットフィルム、ウィンドウ用装飾フィルム、光学用フィルムなど



食品包材事業

日本で初めて塩化ビニル樹脂のラップを開発したパイオニア2社が事業統合し、家庭用から業務用まで、幅広い包装用途に最適の品質・性能を追求した製品を開発し市場に提供しています。

● 主要製品

塩化ビニルラップ、オレフィン系ラップなど



● 業績

2017年度(2018年3月期)のわが国経済は、生産活動は回復が一服しているものの輸出は緩やかに回復し、個人消費も堅調な雇用所得情勢を背景に緩やかな回復傾向となりました。このような環境の中、リケンテクノスグループはグローバルな視点で顧客のニーズをきめ細かく確実に捉え、国内および海外の経営資源を効率的に活用して受注につなげることで業績の向上に努めました。その結果、連結売上高は前期比増となったものの、連結営業利益・

連結経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益はともに前期比減となり、増収減益となりました。

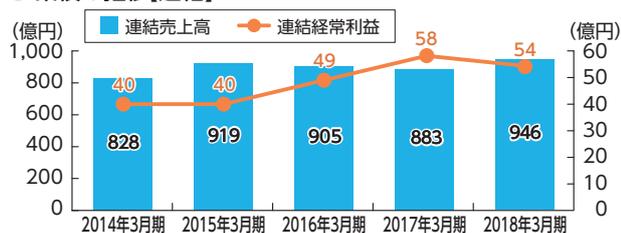
● 2018年3月期 業績

(単位:億円)

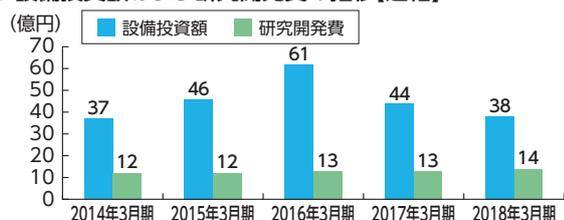
	連結	個別
売上高	946	408
営業利益	53	13
経常利益	54	30
当期純利益*	25	25

*親会社株主に帰属する当期純利益

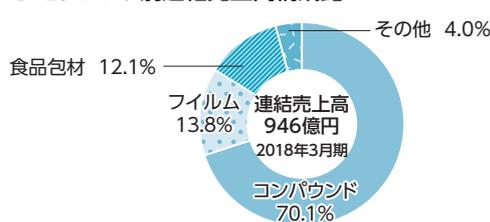
● 業績の推移【連結】



● 設備投資額および研究開発費の推移【連結】



● セグメント別連結売上高構成比



● 従業員の推移



● 中期経営計画

リケンテクノスグループは、3か年中期経営計画「ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018 ～すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して～」の最終年度を迎えました。設定した5つの主要課題の完遂に向けて社員一同邁進してまいります。

● 経営方針

ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018

～すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して～



個々の力を集結し、パワーを凝縮させながらさらなる高み、ひとつ先の未来へ、素早くかつ優れたパフォーマンスをもって進んでいく様を表現しています。

● 計数目標

	2019年3月期(最終年度)目標
連結売上高	1,100億円
連結営業利益	80億円
連結経常利益	80億円
連結当期純利益*	45億円

※親会社株主に帰属する当期純利益

● 経営目標

	ROS 売上高 営業利益率	ROA 総資産 経常利益率	ROE 株主資本 純利益率
2019年3月期 (最終年度)目標	7%	10%	8%

● 主要課題

① 全事業のグローバル経営の深化

タイ国2カ所およびインドネシア国のコンパウンド工場が稼働を開始し、国内でも設備投資を行います。投資設備を効率的に活用しグローバル展開を進めてまいります。

② 収益力・財務体質の強化

海外での投資設備を活用し早期に稼働を上げることで、収益力の強化につなげ、ROS・ROA・ROEの改善を進めてまいります。

③ 革新的な生産体制の創造

世界で認められている高い品質とともに、さらなる競争力の構築を目指し、グローバルで戦える体制を構築してまいります。

④ 光学分野における事業化の確立

受注を獲得した大型案件の量産性改善を進め、他分野にも展開することで、売上および利益改善に努めてまいります。

⑤ 戦略的な人材育成による企業基盤の強化

「人事制度の見直し」、「働き方改革の取り組み」および「積極的なポストチャレンジ」等により、活力のある組織風土の醸成を目指してまいります。

国内・海外ネットワーク

リケンテクノスグループは、リケンテクノスおよび連結子会社19社で構成されています。創業以来、積極的に国内外市場を開拓し、リケンテクノスブランドの浸透に努めてきました。「**マテリアル・ソリューション・サプライヤー**」として、国内外拠点の連携により、総合的にお客様の課題を解決しています。

国内

●事業所 ●製造会社 ●販売会社
 ＊ISO9001認証取得 ＊ISO14001認証取得

2018年9月1日現在



木粉入りコンパウンド

① リケンケミカルプロダクツ株式会社＊



③ 名古屋営業所＊＊



② 大阪支店＊＊



⑤ 三重工場＊＊

⑦ 研究開発センター(三重)＊＊



リケンテクノス株式会社事業所	主な業務内容	所在地
① 本社	本社機構、営業	東京都千代田区
② 大阪支店	営業	大阪府大阪市
③ 名古屋営業所	営業	愛知県名古屋市
④ 埼玉工場	コンパウンド・フィルムの製造	埼玉県深谷市
⑤ 三重工場	コンパウンド・フィルムの製造	三重県亀山市
⑥ 群馬工場	グリーン環境下での高機能フィルムの製造	群馬県太田市
⑦ 研究開発センター	研究開発および国内外拠点の技術的サポート	東京都大田区 埼玉県深谷市 三重県亀山市 群馬県太田市

※連結子会社のうち製造会社については、代表製品の写真を掲載しております。

6 群馬工場**
7 研究開発センター(群馬)**

4 埼玉工場**
7 研究開発センター(埼玉)**

8 リケンケーブルテクノロジー株式会社**

各種電線

1 本社**

9 株式会社協栄樹脂製作所*

成形加工品
(POSレール、リケンテープ®)

10 リケンテクノスインターナショナル株式会社

12 リケンファブプロ株式会社**

塩ビラップ

7 研究開発センター(東京)**

国内連結子会社	主な業務内容	所在地	資本金	出資比率
8 リケンケーブルテクノロジー株式会社	電線の製造・販売	埼玉県入間市	48,000千円	100%
9 株式会社協栄樹脂製作所	合成樹脂製品の成型加工および製品の販売	東京都千代田区	24,000千円	100%
10 リケンテクノスインターナショナル株式会社	合成樹脂加工品の仕入・販売	東京都千代田区	10,000千円	100%
11 リケンケミカルプロダクツ株式会社	塩化ビニルおよび高機能プラスチック成形材料の製造・販売	滋賀県湖南市	300,000千円	100%
12 リケンファブプロ株式会社	食品包装用フィルムおよび合成樹脂、アルミニウム、紙等を原料とする日用品雑貨の製造・加工・販売	東京都千代田区	200,000千円	100%

国内連結子会社は本社所在地のみを表示しています。

国内・海外ネットワーク

海外には14社の連結子会社があり、世界中に高い品質のリケンテクノス製品をお届けしています。

海外

●製造会社 ●販売会社
 *ISO9001認証取得 *ISO14001認証取得

2018年9月1日現在



26 RIKEN TECHNOS EUROPE B.V.



20 RIKEN VIETNAM CO., LTD. **

医療向け
塩ビコンパウンド



23 RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL VIETNAM CO., LTD.



14 RIKEN ELASTOMERS (THAILAND) CO., LTD. **



自動車部材向け
エラストマー
コンパウンド



13 RIKEN (THAILAND) CO., LTD. **



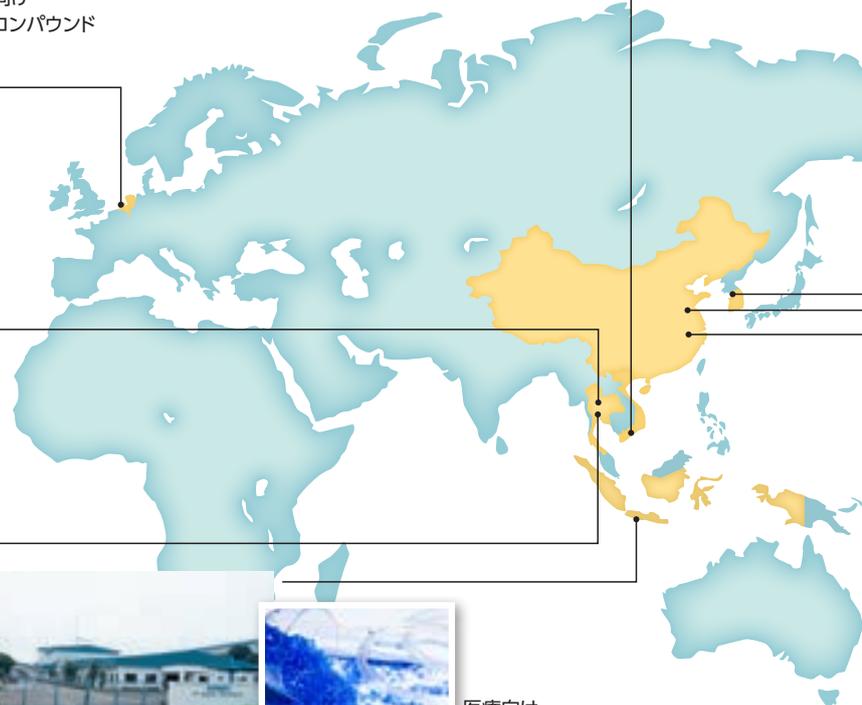
一般塩ビ
コンパウンド



15 PT. RIKEN INDONESIA **



医療向け
塩ビコンパウンド



海外連結子会社	主な業務内容	所在地	資本金	出資比率
13 RIKEN (THAILAND) CO., LTD.	塩化ビニル成形材料の製造・販売	タイ国パトムタニ県	1億2,000万 タイバーツ	40%
14 RIKEN ELASTOMERS (THAILAND) CO., LTD.	高機能プラスチック成形材料の製造・販売	タイ国アユタヤ県	3億 タイバーツ	100%
15 PT. RIKEN INDONESIA	塩化ビニル成形材料の製造・販売	インドネシア国 ウエストジャワ州	11,000千 米ドル	56.22%
16 上海理研塑料有限公司	塩化ビニル成形材料の製造・販売	中国上海市	7,500千 米ドル	70%
17 理研食品包装(江蘇)有限公司	食品包装用フィルムの製造・販売	中国江蘇省	13,500千 米ドル	92.59%
18 RIMTEC CORPORATION	塩化ビニル成形材料の製造	米国 ニュージャージー州	13,415千 米ドル	(62.94%)
19 RIKEN ELASTOMERS CORPORATION	高機能プラスチック成形材料および塩化ビニル成形材料の製造	米国 ケンタッキー州	28,741千 米ドル	(62.94%)
20 RIKEN VIETNAM CO., LTD.	塩化ビニル成形材料の製造・販売	ベトナム国 ビンズオン省	10,000千 米ドル	100%

※RIKEN ELASTOMERS CORPORATIONの資本金は、資本準備金を含んでいます。

※連結子会社のうち製造会社については、代表製品の写真を掲載しております。



22 RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL KOREA CORPORATION



25 RIKEN U.S.A. CORPORATION



塩ビラップ



17 理研食品包装(江蘇)有限公司*



18 RIMTEC CORPORATION*



自動車部材向け塩ビコンパウンド



自動車部材向けエラストマーコンパウンド



自動車部材向け塩ビコンパウンド

16 上海理研塑料有限公司**



21 理元(上海)貿易有限公司



19 RIKEN ELASTOMERS CORPORATION*



24 RIKEN AMERICAS CORPORATION

海外連結子会社	主な業務内容	所在地	資本金	出資比率
21 理元(上海)貿易有限公司	機能性フィルム製品の仕入・販売	中国上海市	5,000千人民元	100%
22 RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL KOREA CORPORATION	プラスチック製品の卸売・輸出入	韓国ソウル市	18億韓国ウォン	100%
23 RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL VIETNAM CO., LTD.	プラスチック製品の卸売・輸出入	ベトナム国ホーチミン市	400千米ドル	100%
24 RIKEN AMERICAS CORPORATION	高性能プラスチック成形材料および塩化ビニル成形材料の販売	米国ケンタッキー州	30,000千米ドル	62.94%
25 RIKEN U.S.A. CORPORATION	機能性フィルム製品の仕入・販売	米国ミシガン州	1,000千米ドル	100%
26 RIKEN TECHNOS EUROPE B.V.	機能性フィルム製品の仕入・販売	オランダ国アムステルダムザウドオースト市	400千ユーロ	100%

※出資比率の()内の数字は、間接保有割合(内数)であり、当社の連結子会社が保有しています。

※RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL (THAILAND) CO., LTD. およびRIKEN TECHNOS INTERNATIONAL PTE., LTD. は、清算手続中であるため、上記の連結子会社から除いています。

製品のご紹介

リケンテクノスグループの製品は、用途に応じて加工され、暮らしの中で活躍しています。

自動車(外装)製品

- 各種モール用コンパウンド および金属調フィルム
- グラスランチャネル用コンパウンド
- ワイヤハーネス用コンパウンド
- ブーツ用コンパウンド
- ドアミラーパッキン用コンパウンド



自動車(内装)製品

- シフトノブ用コンパウンド
- 加飾用フィルム RIVIC® (リビック®)
- ウィンドウ用フィルム RIVEX® (リベックス®)



建材・建装材製品

- 高級壁装用フィルム
- 断熱窓枠用コンパウンド
- 建装材部材用コンパウンド



手すり



医療・ヘルスケア製品

- シリンジガセット用コンパウンド
- 血液回路用コンパウンド
- 枕のクッション材用コンパウンド



電装材製品

- 電力電線用コンパウンド



- 機器電線用コンパウンド



- フレキシブルフラットケーブル用フィルム



電子材料製品

- 次世代ディスプレイ用フィルムREPTY®(リップティ®)DC100

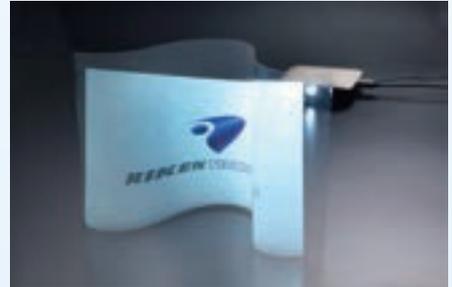


モバイル機器



自動車用ディスプレイ

- プロジェクション用フィルム



デジタルサイネージ

生活資材製品

- ペングリップ用コンパウンド



- 接木用フィルム



- レコード用コンパウンド



- キャップシール用コンパウンド



- 家電ホース用コンパウンド



- 冷蔵庫ガスケット用コンパウンド



食品包材製品

- 小巻ラップ



- 業務用ラップ



- リケンビッグラップ®



- フォーラップ®



- ブルーラップ「オーシャン」



- TSUTSUMU



コーポレート・ガバナンス

常勤監査等委員メッセージ



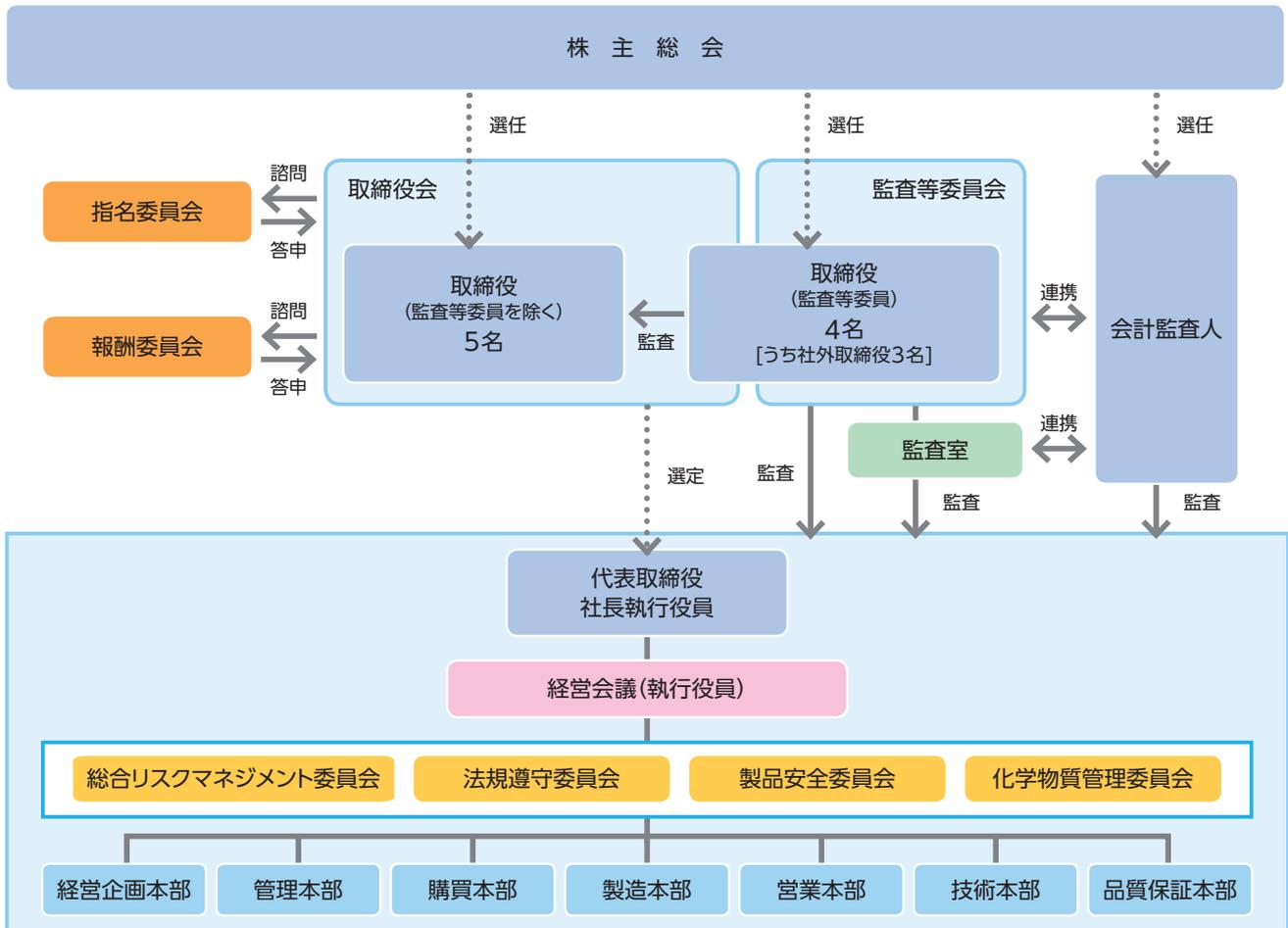
リケンテクノス株式会社
取締役
常勤監査等委員
こいずみ まさと
小泉 真人

ここ数年、企業の大規模な不祥事が後を絶たず、改めて企業のガバナンス体制のあり方が問われています。

リケンテクノスも2016年6月に「取締役会の監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンス体制の一層の充実を図ることにより、企業価値の向上を実現すること」を目的として監査等委員会設置会社に移行しました。監査等委員会は、今期も引き続き独立性の確保された社外取締役3名を含む計4名体制で、社会的信頼に応える、より良質なガバナンス体制の確立に努め、直轄組織である監査室と連携し実効性の高い内部監査を行ってまいります。

● コーポレート・ガバナンス体制

リケンテクノスは、取締役会の監督機能の強化、経営の透明性・公正性の向上を図るため、監査等委員会設置会社形態を採用しています。また、執行役員制度を採用し、業務執行権限の大幅な委譲を推進することで、機動的・戦略的な経営体制を構築しています。



※詳細は、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」で開示しています。
最新版は、リケンテクノスのホームページ、または東京証券取引所のホームページにある「コーポレート・ガバナンス情報サービス」よりご覧いただけます。

● リケンテクノスグループ 企業行動規範

社会的信頼を確保し、企業の社会的責任を果たす基本方針として「リケンテクノスグループ 企業行動規範」を定め、すべての役員および従業員がこれに従って活動を行っています。また、企業行動規範をカードにまとめて社員一人ひとりが常に携帯し、実践に努めています。

筆頭独立社外取締役の立場から



リケンテクノス株式会社
筆頭独立社外取締役
監査等委員
早川 貴之

リケンテクノスは、取締役の3分の1にあたる3名が独立社外取締役です。監査等委員である独立社外取締役として、株主様、お取引先様等、ステークホルダーの皆様の目線を大切に、経営に対し独立した立場から監査、監督等と助言を的確に行うことにより、経営の意思決定における透明性、健全性、公正性等の一層の向上を図ってまいります。

● 内部統制システムの基本方針に沿った体制整備

「リケンテクノスグループ 企業行動規範」を確実に実現するために、「内部統制システムの基本方針」を制定しています。詳細は、リケンテクノスのWebサイトよりご覧いただけます。

取締役・使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- 代表取締役をはじめとした全取締役は、「リケンテクノスグループ 企業行動規範」および法令・定款遵守がすべての企業活動において基本であることを全役職員に徹底させる。
- 管理本部長を法規遵守委員会の委員長に任命し、その活動内容は取締役会に適宜報告される。また、法務・コンプライアンス室は全役職員に対しコンプライアンス教育を実施する。
- グループ各社は、市民社会の安全や秩序に脅威を与える反社会的勢力および団体とは一切関係を持たない。また、反社会的勢力および団体からの不当な要求に対しては、毅然とした姿勢で臨み決して屈しない。

グループ各社における業務の適正を確保するための体制

- 経営企画部は、「連結子会社管理規程」等に基づき、リケンテクノスに対する報告およびリケンテクノスにおける承認が適切に実施されるようにリケンテクノス連結子会社を管理・監督する。また、これらの管理・監督を通じて損失の危険を管理する。
- 法務・コンプライアンス室は、「リケンテクノスグループ コンプライアンスマニュアル」をグループ各社の役職員に周知徹底させ、グループ各社のコンプライアンス体制の整備および問題の解決に努める。
- 監査室は、定期的にグループ各社の業務監査を実施し、すべての業務活動が法令等に適合することを確認するとともに、経営諸規程に基づいて効率的に運営され、また、経営諸規程が経営目標達成のために適切に機能しているかを点検・評価する。

監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項ならびにその独立性に関する事項

- 監査等委員会の職務を補佐する直轄の組織として監査室を設置し、専任の使用人を複数名配置する。
- 当該使用人の独立性を確保するため、その指揮命令権を専ら監査等委員会に委譲し、取締役（監査等委員である取締役を除く。）のほか、業務執行部門の指揮命令を受けないこととする。また、当該使用人の人事異動・人事評価・懲戒処分等の決定については、事前に監査等委員会の同意を得るものとする。

● 財務報告に係わる内部統制

「金融商品取引法」に基づき、財務報告に係わる内部統制の整備・運用および評価の基本方針書を作成し、2009年3月期決算から適用しています。

2018年3月期決算におけるリケンテクノスグループの財務報告に係わる内部統制は有効であると評価する内部統制報告書を金融庁に提出しました。

● 独立役員

リケンテクノスは、東京証券取引所上場規程第436条の2の定めに従い、独立役員3名（社外取締役3名）を選任しています。また、独立社外取締役の中から互選により「筆頭独立社外取締役」を選定し、ほかの取締役等との連絡・調整に係る体制整備を図っています。

● 内部通報ホットライン

法令・規則違反に関する疑問などを連絡・相談する窓口として内部通報ホットラインを設置しています。

監査室のほか、顧問法律事務所による第三者窓口も設置し、また、相談者が社内で特定されないようにするなど、いかなる不利益も受けまいよう徹底しています。

● 情報セキュリティ

リケンテクノスでは、アクセス制限・データの暗号化などにより、情報漏洩リスクの最小化に努め、最新のプロテクトシステムを導入しています。また、個人情報保護法およびマイナンバー法*1に基づき、社内規程を制定・運用しています。

*1 マイナンバー法：行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律



お客様とのかかわり

営業本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社
代表取締役 専務執行役員
営業本部長
住吉 正充

営業本部は、お客様との取り組みを通じて、すべての空間に快適さを提供することを目指しています。

「建材・建装材」「電材」「車両」「生活資材医療ヘルスケア」「情報電子」の各ビジネスユニットが、技術本部・製造本部・品質保証本部・購買本部と一体となり、お客様の視点に立ち様々な価値を提供するべく活動を続けてまいります。そして、日本国内のみならず、海外でも人々が豊かな暮らしを実現できるように、素材を通じて貢献していきたいと考えています。

役員および部門長メッセージ



リケンテクノス株式会社
上席執行役員
技術本部長
兼 情報電子ビジネス
ユニットマネージャー
大谷 寛文

技術本部は、お客様が感動する独創的な製品を、配合加工技術、製膜技術、コーティング技術、複層化技術などをフルに活用し、大学や社外企業などと協業体制も推進充実し光のスピードで「美しく」「軽く」「安全に」の3キーワードで創出していきます。さらに、グローバル社会に貢献すべく、新商品として地球環境保全に貢献する素材を開発するとともに、抗菌・抗ウィルス・防虫機能を付与し、感染防止対策による社会貢献を目指します。情報電子分野は、オンリーワン世界最強グラスチックフィルムREPTY®(リプティ®)DC100をベースに、光を科学し多分野向けに多くのグレードを開発し、未来生活空間(モビリティ、街並み、サイネージ、医療、情報機器など)を快適にしております。



リケンテクノス株式会社
執行役員
技術本部 副本部長
兼 研究開発センター長
杉野 等

研究開発センターは、国内だけでなく新興国も含め、ますます多様化する市場ニーズへ迅速に対応し、間断なく新技術、新製品を投入するために研究・開発体制を強化していきます。さらに、成長産業の新分野として医療・ヘルスケア分野、再生可能エネルギーを有効利用するスマートグリッドなどの新エネルギー分野、新素材研究関連など、先端技術の研究・開発拠点となることを目指していきます。また、技術開発力のさらなる進化・発展と継承を、重要な経営課題のひとつと位置づけて、研究開発センターは、国内外生産技術の中核となり、加えて、技術者の育成センターとして海外拠点へのグローバル人材の創出も行っています。



リケンテクノス株式会社
執行役員
フィルム統括部部长
兼 建材・建装材ビジネス
ユニットマネージャー
登坂 真史

フィルム統括部は、国内の「建材・建装材」「電材」「車両」「生活資材医療ヘルスケア」「情報電子」の各ビジネスユニットおよび欧州、米国、中国、韓国の各海外拠点からの情報を共有化し、お客様にグローバルな最新市場ニーズ、トレンド、環境規制に応じた製品を提供するとともに、お客様からのニーズにスピードある対応ができるよう取り組んでおります。また、技術、製造、品質保証、購買の各本部と連携し、高品質の製品を安定供給し、さらに高機能、高意匠のフィルムを開発してまいります。そしてすべての生活空間に快適さを実感できる製品を提供できるようこれからも努めてまいります。



リケンテクノス株式会社
コンパウンド統括部長
兼 生活資材医療
ヘルスケアビジネス
ユニットマネージャー
関口 知伸

コンパウンド統括部は、「建材・建築材」「電材」「車両」「生活資材医療ヘルスケア」の4つのビジネスユニットの組織を超えて、コンパウンド製品全体の営業を統括しています。お客様の様々なご要望に対して、最適な配合でのコンパウンドをご提供いたします。そのために、技術本部・製造本部・品質保証本部・購買本部と一体となり、顧客満足度UPを最重要課題として取り組んでまいります。市場の変化を見逃さず、多種の新しい製品も常に提案し続け、お客様および社会の発展に貢献したいと考えております。また、お客様の海外拠点へのフォローアップにつきましても、リケンテクノスグループのグローバルネットワークを最大限に活かして、貢献できるよう取り組んでまいります。



リケンテクノス株式会社
電材ビジネスユニット
マネージャー
大工原 敬次郎

電材ビジネスユニットは塩ビ・エラストマー・難燃／架橋PEコンパウンド、フィルム(フレキシブルフラットケーブル)を電線メーカーに、エンブラを電子部品メーカーに販売しております。電線は電力・通信・建設向けインフラから、ロボット・電子機器・家電・車両と広い範囲で使用されており、その被覆材として活用いただいております。ノンハロ難燃エラストマーである「トリニティ®FR」は当社独自の製品として新分野に採用されています。お客様の要求特性・規格をクリアし、その上で外観・色調を要望どおりに合わせ、さらに加工性をアップさせるといった行き届いたフォローを常に意識し営業活動を行っております。



リケンテクノス株式会社
車両ビジネスユニット
マネージャー
中村 文俊

車両ビジネスユニットは、塩ビおよびエラストマーコンパウンド、加飾フィルムを自動車部品会社を中心に販売しております。主に自動車の外装に使用されるモール材・空力部材、内装に使用されるグリップ材・表皮材等に活用いただいております。最近ではゴム弾性・シール性・耐熱性・耐油性といった機能を追求したエラストマーコンパウンド、彩を加える加飾フィルムの採用も増えています。求められる機能が高かったり、高意匠のデザインのご要望がある場合は、自動車会社様と直に開発をすることもあります。車両ビジネスはすでにグローバル化が進んでおり、当社の素材が世界中の自動車の快適な空間作りに一役買っています。

「人とくるまのテクノロジー展2018」に出展

「人とくるまのテクノロジー展2018」

開催期間：2018年5月23日(水)～5月25日(金)
場所：パシフィコ横浜

現在、自動車産業は大きな転換期を迎えており、従来の延長にはない新たな技術による進化が始まっております。今回の展示会でも、脱エンジンと自動運転の展示が多く見られるようになりました。脱エンジン化によりエンジン車よりも部品への耐熱要求が低くなるため、従来から使われているゴム製部品から樹脂製部品への切り替えが起ってきます。また自動運転化により内装の美しさや静音性など快適な空間も求められるようになります。このよう

なトレンドを受け、当社のブースでも、各部品がゴム製からの当社の開発した樹脂の材料で代替できることをわかりやすく表現した展示といたしました。

また、フィルム製品については、金属調エンボス品や木目調の新規意匠を付与したフィルムならではの美しい意匠を展示いたしました。また、外装塗装からフィルム貼りへの潜在ニーズの高まりを受け、外装用フィルムも提案いたしました。光学フィルムについては、REPTY® DC100による曲面ディスプレイを展示し、未来の自動車への採用を目指してまいります。いずれの展示品も多くのお客様から反響をいただき、今後の開発に一層邁進してまいります。

○展示品紹介



樹脂製部品を用いたエンジン周りのフロント部分



内外装用加飾フィルム(RIVIC®)



コンパウンドの練りの工程模型ミエルーダ28



● 製品の品質保証

品質保証本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社
 上席執行役員
 品質保証本部長
 たなか みちあき
田坂 道久

品質保証本部は、品質方針であります「顧客第一、品質第一を念頭に置き、信頼性の高い製品・サービスを提供する」を基に活動しております。

品質保証本部によるチェック体制を強化し、世界中のどこでも同じ「リケンテクノス品質」を供給できるグローバル供給体制を継続・推進しております。「熱意と徹底で、不良ゼロ・労災ゼロを実現する」ことを目標に、国内・海外の関係会社への品質監査を通じISO9001を軸にしたシステムの向上、5Sの推進、原材料と製品スペックの最新版管理を実施しております。その結果、関係者の品質への意識が高まり、高い顧客満足度を頂戴することができております。また、環境との調和に配慮した製品作り、環境負荷物質および、廃棄物の削減を推進しております。

本年度から、文書作成や管理、品質検査データの統計管理、不具合情報の解析と再発防止にAI導入と活用を段階的に行い、効率化、能率化、合理化を実現していきます。

リケンテクノスはISO9001の仕組みを活用しています。各生産拠点に品質保証部門を置き、原材料受け入れから製品納入まで全工程の品質管理を徹底しています。さらに、毎月生産拠点・製造課ごとに品質改善委員会を開催し、不具合の是正処置の妥当性等の確認、必要に応じて再検討、水平展開の指示等を行っています。

また、製品の開発段階より、お客様のご要望を満たし、安定した品質が得られる材料設計に注力し、新素材などの環境対応型製品も積極的に開発しています。

ISO9001(2015)登録証

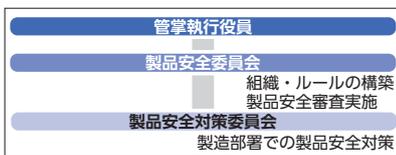
登録日:1998年9月14日 有効期限:2019年8月30日

● 安全に配慮した製品開発

● 製造物責任(PL)対応

メーカーに課せられた使命として、当社設立以来、製品の安全性に配慮してまいりました。また、製造物責任法の施行を機会に、1995年1月にPL問題の発生を防止するシステムを構築するなど、「製品の安全性」への取り組みをさらに強化しています。

● 製品安全組織



● 製品安全審査手順



● 化学物質の安全性の管理強化

● 規制対象化学物質の混入防止製造ライン

RoHS2指令などの規制対象化学物質の混入を防止できる製造ラインとなっています。

● 化学物質管理委員会の設置

「化学物質管理指針」を設定し、法律で禁止されている化

学物質審査規制法(化審法)の第一種・第二種特定化学物質のほか、監視化学物質も使用禁止としています。労働安全衛生上、避けるべき化学物質も自主的に削減しています。

*RoHS指令：有害物質の電気・電子機器への使用を制限するため欧州規制で2006年から施行された指令(6物質規制)。RoHS2は2013年に施行され2015年改正、2019年から施行される指令(10物質規制)。

● クレームへの対応

2017年度は、変化点管理・ルール遵守パトロールを主軸に活動いたしました。しかし、設備管理不足による不良等が発生し、十分な効果が確認できませんでした。今年度は、TPM活動の活性化、変化点管理・なぜなぜ分析の深化を進めてまいります。

株主様とのかかわり

株主の皆様のご支援に対し厚く御礼申し上げますとともに、何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

● 株主総会に関する取り組み

リケンテクノスの株主総会は、より多くの株主様に出席していただけるよう、株主総会が集中する日程を避けて開催しています。

株主総会の議題を十分に検討いただくため、招集通知の早期発送と発送前のWEB開示を行っています。また、議決権行使を円滑に行っていただく取り組みとして、インターネットによる議決権行使と招集通知の英訳を行っています。

● 配当に関する基本方針

リケンテクノスは、中長期的な企業価値の向上を通して株主還元を図ることを経営上の重要課題のひとつと位置づけ、配当については、連結配当性向30%程度をひとつの目安とした上で、今後の事業投資と自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行うことを基本方針としています。

この方針に基づき、2018年3月期の中間配当金については、前期比1円増配の1株当たり6円とし、中間配当金を含めた年間配当金は1株当たり12円とさせていただきます。

基準日	1株当り配当金		
	中間	期末	年間
2014年3月期	4円00銭	5円00銭	9円00銭
2015年3月期	4円00銭	5円00銭	9円00銭
2016年3月期	5円00銭	5円00銭	10円00銭
2017年3月期	5円00銭	6円00銭	11円00銭
2018年3月期	6円00銭	6円00銭	12円00銭

● 情報開示について

リケンテクノスは、常に株主や投資家の皆様の視点に立った迅速、正確かつ公平な会社情報の開示を適切に行っています。皆様に事業活動の状況や戦略などへの理解を一層深めていただけるよう、東京証券取引所の適時開示基準以上の積極的開示に努めています。

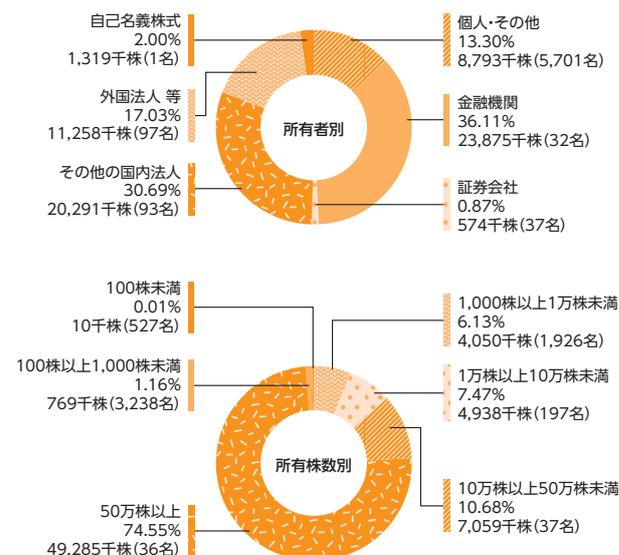
また、リケンテクノスWebサイトに財務・IRに関するページを設け、決算短信、有価証券報告書、その他の適時開示資料などを情報開示後(プレスリリース)、速やかにリケンテクノスWebサイトにも掲載しています。

● 株式状況・株主の構成(2018年3月31日現在)

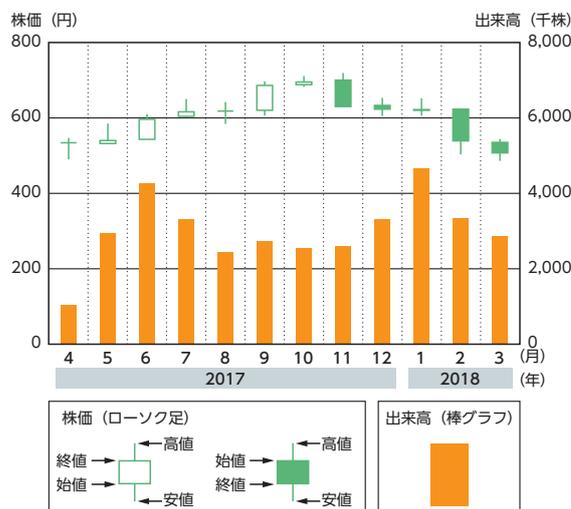
● 株式の状況

発行可能株式総数	236,000,000株
発行済株式の総数	66,113,819株
株主数	5,961名

● 所有者別・所有株数別株式状況



● 株価および出来高の推移



お取引先様とのかかわり

リケンテクノスグループでは、サプライチェーンを含めたより良い環境システム、品質システムの構築に努めています。また、コストダウンのために購買の窓口を広げ、競争力のある原料調達に努めています。

購買本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社
執行役員
購買本部長
杉江 剛

購買本部は、2017年にボーダレスな原材料・貯蔵品等の調達に関する「グローバル購買方針」を策定しました。これは、グローバル購買の深化を目的にしたもので、現地調達・複数購買・安定調達・集中購買・情報共有の5つのキーワードを軸にBCP対策も加味し、運用しています。また、物流に関しては、契約物流会社様のご協力のもと、配送の合理化やその費用抑制を行っています。本部内も効率化を図るため、昨年4月に資材部を「調達企画グループ」と「業務統括グループ」に改組し、業務の改善に努めています。

中期経営計画「ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018」の最終年に際し、お取引先の皆様とさらなる協業をして発展していきたいと願っております。

● リケンテクノスの購買方針について

1 公正な購買取引と選定

対等な立場で取引を行います。複数購買を原則とし、公正公平な参入機会を提供します。

2 パートナーシップの構築

お取引先様と良好な人間関係を保ち、人間的尊厳を重視し不当な差別はいたしません。

3 関連法令の遵守と自主管理

お取引先様との機密情報の取り扱いに留意し、社会的規範や関連法令を重視し、リケンテクノスグループ グリーン調達基準に基づき購入を行います。

4 お取引先様の状況

購入にあたり、特に「技術力」「競争力」「経営力」を考慮しています。

● リケンテクノスの購買体制について

リケンテクノスの購買業務は、本社購買本部の資材部と、各工場の業務課が行っています。

購買担当

資材部 集中購買による原材料・原反・燃料・包装資材・高額設備関連など。

各工場の業務課 消耗品・貯蔵品・設備関連など。

● サプライチェーンマネジメント

お客様により安全で信頼性のある製品をお届けするため、お取引先様各社の協力を得て、サプライチェーンを含めたより良い環境システム、品質システムの構築に努めています。2017年度は、14社の原材料購入先、委託加工先、運送委託先、産業廃棄物処理委託先の環境を含めた品質監査を実施し、改善にご協力いただきました。

● サプライチェーン



● リケンテクノスグループ グリーン調達基準

環境に配慮した製品を提供していくためには、環境負荷のより少ない原材料や副資材を調達することが不可欠です。当社は2004年度に環境関連物質に関する「グリーン調達基準」を策定し、Webサイト上に公開しました。さらに、2009年8月、関係会社もこの基準の範囲に加え「リケンテクノスグループ グリーン調達基準」とし、2015年改定に至っています。

※詳細は当社Webサイトをご覧ください。

適用範囲

当社が調達する樹脂、可塑剤、安定剤、充填剤、強化剤、着色剤、フィルム基材、塗工剤、接着剤など直接製品を構成するものや、包装材料、離形紙などの副資材など。

要求事項

- a. お取引先様における環境管理システムの構築
- b. 環境関連物質の管理等に関する環境パフォーマンスの達成
- c. 当社が指定した環境関連物質に関する調査および報告。
[RoHS2* 10物質の測定データ]、化学物質審査規制法、労働安全衛生法、REACH等法令該当化学物質含有情報の提供

運用

原材料・副資材は、法令該当化学物質等の含有禁止物質が含まれていない、あるいは管理すべき物質の含有量が把握されているものを調達していきます。また、当社評価結果により、お取引先様に対しより安全で環境負荷の少な

い原材料・副資材への改善をお願いする場合があります。

リケンテクノスグリーン購入基準

文具・OA機器等の事務用品については「グリーン購入基準」を策定し、可能な限りエコ商品の購入を促進しています。

● 適用範囲

当社の本社・支店・営業所・工場・研究開発センターで購入または借り受ける紙類等の文具、コピー機・パソコン等のOA機器や自動車等。

● 要求事項

「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(グリーン購入法)に準じた環境負荷が少ない、有害物質を含有しない等の基準を満たすこと。

● 運用

お取引先様には、積極的にエコ商品を紹介いただけるようお願いしています。

* P26の注釈参照下さい。

● 物流における環境への取り組み

- 製品納入の帰りの車による実車率の向上を目指します。
- 物流拠点の統廃合を行っていきます。
- 省エネ法による特定荷主としての義務を果たしていきます。中長期的にみてエネルギー消費原単位を年率1%低減を目標にしています。
- お客様からのパレットの回収による購入枚数の削減、森林資源保護のためプラスチック製への変更を推進しています。
- グリーン物流促進事業へ参加しています。

品質安全活動

- 提携運送会社によるISO9001の認証取得、Gマーク(安全性優良事業所)の認定取得を推奨しています。

亀山急送株式会社

グリーン経営認証

登録日:2007年1月19日 有効期限:2019年1月18日

ISO9001 登録証

登録日:2003年5月9日

有効期限:2018年9月14日(更新手続中)

株式会社モテギ

Gマーク登録証

登録日:2007年12月20日 有効期限:2019年12月31日

ISO9001 登録証

登録日:2000年3月10日 有効期限:2019年4月1日

ISO14001 登録証

登録日:2004年10月29日 有効期限:2019年4月1日

● 輸送量とCO₂発生量

輸送	2015年度結果	2016年度結果	2017年度結果
輸送量(t・km)	26,898,851	27,139,548	28,738,308
CO ₂ 発生量(t-CO ₂)	4,669	4,711	4,988

地域の皆様とのかかわり

リケンテクノスグループでは、地域社会との共生のために様々な取り組みを行い、事業活動へのご理解をいただいています。国内と海外での取り組みについてご紹介します。

国内での取り組み



環境への取り組み

埼玉工場



埼玉工場では、岡部駅までの線路沿いゴミ拾い(年2回)と、工場周辺ゴミ拾い(月1回)を行っています。

群馬工場



2017年の台風通過後に工場周辺の道路にあふれたチリやゴミを工業団地内のほかの会社の方々と一緒に回収・清掃しました。

三重工場



子ども神輿

樺野町の子ども神輿で、元気な子供たちと交流を図りました。

本社



東北復興支援販売会 & 復興BAR

一般社団法人希望の環による、東北復興支援販売会&復興BARを開催しました。東日本大震災および熊本地震前の販路を失ってしまった生産者の方々から商品を購入することで、楽しみながら復興支援できるイベントです。販売員として嘉悦大学の学生さんが来てくださり、生産者の方からは、感謝状をいただきました。

2017年4月~

4月

5月

6月

7月

8月

9月



貢献



次世代



交流



環境



献血実施

赤十字血液センターによる献血を実施しました。

埼玉工場



埼玉工場



近隣自治会の夏祭りへの協賛

地域自治会のこども神輿が、工場にやってきました。今や埼玉工場の夏の風物詩となりました。

三重工場



亀山市納涼大会への協賛および参加

旧亀山町時代から続く亀山市納涼大会へ企業の部として参加し、フランクフルト、生ビール、そしてリケンファブ口のラップを販売しました。



群馬工場 埼玉工場

普通救命講習



群馬県の消防本部で普通救命講習を団体受講しました。



駅伝・マラソン大会



三重工場



亀山市駅伝大会への協賛および参加を行いました。



埼玉工場

ふかやシティハーフマラソンへの協賛および参加を行いました。



本社



「平成30年7月西日本豪雨」への支援

2018年7月に発生した西日本豪雨災害により被害に遭われた皆様の救援や被災地復興のため、当社は日本赤十字社を通して義援金100万円を寄付しました。また、愛媛県宇和島市ヘリケンラップ1,500本を贈呈しました。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



交通安全講話

三重県亀山警察による交通安全講話が実施されました。



三重工場

おかベコスモス祭りへの協賛を行いました。



職場体験

地元の岡部中学校より2名の生徒が職場体験に来てくれました。



埼玉工場



インターンシップ

大学院生・大学生を対象に、PDCAサイクルを意識したインターンシップを2週間実施しました。

研究開発センター(東京)



消火栓操法の練習

当日は雨天により中止になってしまいましたが、深谷市消防本部による「屋内消火栓操法指導会」に向けて2か月間練習を行いました。



埼玉工場

インターンシップ 埼玉工場 三重工場

未来を担う高校生のために職場体験・インターンシップを積極的に実施しています。埼玉工場・三重工場ともにフィルムの製造工程、および設備保全の実習などを体験していただきました。2018年1月に実施した埼玉工場での職場体験記をご紹介します。(一部抜粋)

埼玉工場 熊谷工業高等学校 機械科生徒代表
私はフィルム製造を見学しましたが、お客様の要望に応えるために長さを変えたり、色を変える時には一度原料を入れる機械などを掃除することを少ない人数でやっていたので、すごいと思いました。三日目にエンジニアリング部で高所作業する上での危険体験などさせていただき、改めて工場ではヘルメットを被ることや機械を再起動するとき身の回りに人がいないか確認することが大切だと思いました。このインターンシップで学んだことはたくさんありましたが、色々と体験もできたのでこれを学校で生かしていけるようにしたいです。

埼玉工場 熊谷工業高等学校 電気科生徒代表
今回のインターンシップで社会についてよく知ることができ、そして体験することが出来たので良かったです。リケンテクノスの皆様はとても優しく、わかりやすく私たちに教えてくれました。リケンテクノスは、フィルムやラップ、コンパウンドを生産している企業です。主にコンパウンドを作っており、各企業に販売して違う形に変えられ車などに使われていることを知って驚きました。三日目は危険防止教室を受け、自分で危険を想定することが出来るようになりとても良い体験になりました。今回で得たものは、必ず自分に役立つことばかりなので、忘れずに将来の自分に役立てていきたいです。



● 海外での取り組み

海外での取り組みとして、米国のRIKEN ELASTOMERS CORPORATION、タイ国のRIKEN (THAILAND) CO., LTD.、中国の理研食品包装(江蘇)有限公司、そしてインドネシア国のPT.RIKEN INDONESIAの取り組みをご紹介します。

役員メッセージ



リケンテクノス株式会社 上席執行役員
RIKEN AMERICAS CORPORATION 取締役社長 兼
RIKEN ELASTOMERS CORPORATION 取締役社長
しまだ たかし
島田 高志

RIKEN AMERICAS CORPORATIONは、子会社のRIKEN ELASTOMERS CORPORATIONとともに地域との密着に力を注いでおります。

地域の発展は人材の成長にもつながり、それにより企業もまた活性化します。この循環により健全な社会が維持されると考えています。

具体的には、ユナイテッドウェイという有名な慈善福祉団体への募金活動を会社および従業員が行っております。また、教育委員会のメンバーである従業員は、地域の学校を支えています。さらには学生達に企業の活動内容を教えるキャリアプログラムへも参加しています。

企業は人により成り立っていますので、地域への貢献は企業としてあるべき姿だと考えております。

● RIKEN ELASTOMERS CORPORATIONの取り組み

RIKEN ELASTOMERS CORPORATIONでは、社員が様々な活動を通じて、地域社会に貢献しています。

ペンブローク小学校へTシャツのプレゼント

RIKEN ELASTOMERS CORPORATIONは、ペンブローク小学校の5年生と6年生の合唱団へ日頃の感謝を込めて当社のロゴ入りTシャツをプレゼントしました。生徒たちは、このロゴTシャツを着て地元のイベントで聖歌を披露してくれました。



RIKEN ELASTOMERS CORPORATIONはBoys & Girls Clubを応援しています。

Boys & Girls Clubの初代組織は1860年にコネティカット州ハートフォードにおいて創立されました。その時代のアメリカではストリートチルドレンが大きな問題となっており、彼らが希望を持って生きていけるよう支援するためにこのクラブが創られました。現在では、青少年向けに放課後プログラムを提供する非営利団体となっており、子供たちが興味を持ったことには何でも挑戦させ経験を積ませることで、彼らの創造性を育てています。1990年にはその活動が正式に認められ全国的な組織となり、現在のBoys & Girls Clubとなりました。

さらに、2006年には創立100周年を迎え、今やこのクラブを卒業した子供たちが多数活躍しています。

ホプキンスビルにもクラブの支部があり、RIKEN ELASTOMERS CORPORATIONは寄付や奉仕を通じ、このクラブを全面的にサポートしています。



Boys & Girls Clubの新しいキッチンおよびカフェテリアプロジェクトに協力する際に撮った写真。→

左から、ブライアンさん、クリスさん、Boys & Girls Club代表のダンさん、ローラさん、ジェラルドさん

役員メッセージ



リケンテクノス株式会社
執行役員
RIKEN (THAILAND) CO., LTD. 取締役社長
うえひま じゅんいち
植山 俊一

RIKEN (THAILAND) CO., LTD.は、1989年設立以来、地域との密着に注力しております。

役所との献血活動の推進、周辺地域の洪水防止対策の実施、米農家への支援、地元の学校への電気機器の寄付を積極的に行っています。

また、従業員とのかかわりを強化するため、従業員の将来を担うご子息、ご息女の学業の助けとなるよう奨学金制度を設けております。若い時にぜひ一生懸命学業に励んでいただき、立派な社会人になり、将来タイ国の発展に貢献していただくことを期待しています。また、従業員は、子供たちの素直な声を受けとめることで、自分自身も仕事を通じて成長し、リケンタイランドの発展に貢献してくれることを期待しています。

RIKEN (THAILAND) CO., LTD.の取り組み

RIKEN (THAILAND) CO., LTD.では、社員の子供たちの勉強推進支援を図り、奨学金制度を設けています。2017年度は1名につき5,000バーツの奨学金を10名に授与しました。10人中、小学2年生が2人、小学3年生が2人、小学4年生が2人、小学5年生が1人、小学6年生2人、中学1年生が1人です。



RIKEN (THAILAND) CO., LTD.の2017年度奨学金を受けた皆さん

サクスイット
シンラパウオン くん
(Master Saksit Sinlapawong)



小学
2年生

医療用製造員
ラーメット シンラパウオンさん
(Mr. Ramet Sinlapawong)
のお子さん

タナグリット
チュイサラオ くん
(Master Tanakrit Choesalao)



小学
2年生

医療用製造員
ナッタポン チュイサラオさん
(Mr. Nattaphong Choesalao)
のお子さん

ナタポン
グアッドモンコン くん
(Master Nattapong Kerdmongkol)



小学
3年生

物流係員
ウドムサック グアッドモンコンさん
(Mr. Udomsak Kerdmongkol)
のお子さん

パトラポー
ブッパーチャート ちゃん
(Miss Patraporn Bupachart)



小学
3年生

医療用製造員
サーティット パートンゴーンさん
(Mr. Satis Panthong)
のお子さん

スピチャー
ブットペット ちゃん
(Miss Supitchaya Buthpetch)



小学
4年生

GA係員
スポット キアンカオさん
(Mr. Sapod Keangkao)
のお子さん

コンクラ
ホンカナーク くん
(Master Kongkra Hongkanak)



小学
4年生

R&D係員
ニラノド ホンカナークさん
(Mr. Nirun Hongkanak)
のお子さん

ララナー
カムピシット ちゃん
(Miss Lalana Khampichit)



小学
5年生

物流係員
ウィチャイ カムピシットさん
(Mr. Wichai Khampichit)
のお子さん

キッティポップ
ブアルアーン くん
(Master Kittipop Bualuang)



小学
6年生

物流係員
チェッター ブアルアーンさん
(Mr. Chetta Bualuang)
のお子さん

チティマー
ミーウサー ちゃん
(Miss Thitima Meeutsar)



小学
6年生

QA係員
プーワドン ミーウサーさん
(Mr. Poowadon Meeutsar)
のお子さん

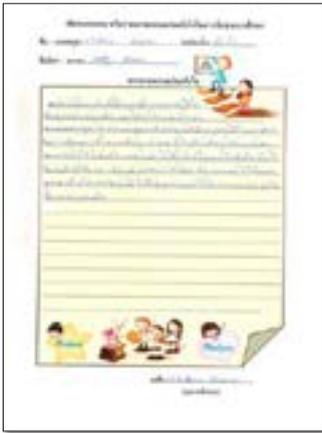
ジラコーン
ルアグカムユイー くん
(Master Jirakorn Rukkumyee)



中学
1年生

物流係員
クリティヤコーン ルアグカムユイーさん
(Miss Krittiyakorn Rukkumyee)
のお子さん

奨学金を授与した子供たちからお礼の手紙をもらいましたので、ご紹介いたします。(現地社員による日本語訳)



キッティポップ・ブアルアーングさん

奨学金をいただき、とても感謝しました。教材費や制服費の購入に使います。子供たちの勉強のために奨学金をくださいましたリケン社様に感謝します。悪いことに使わないで役に立つようお金を使うと約束します。貯金箱に入れて価値のあるものに使います。父母にもあげます。リケン社様、改めてご感謝いたします。速やかに前進の会社になるようにお祈りいたします。有難うございます。

タナグリット・チュイサラオさん

今回、リケン社様より奨学金をいただけるということはとても嬉しく思います。奨学金を学費に使います。私はしっかり勉強します。今回の奨学金をくださりまして感謝いたします。



コンクラー・ホンカナークさん

私はしっかり勉強します。奨学金を節約して使います。やんちゃしないで良い子になって父親を手伝います。良い成績をとれるよう真面目に勉強します。大人になったら仕事して貯金します。たくさん貯金できたら節約して使います。リケン社様より奨学金をいただきましてとても嬉しいです。節約して価値のあることに使います。将来良い仕事ができるため真面目に勉強します。私はいい社会人になります。



● 理研食品包装(江蘇)有限公司の取り組み

理研食品包装(江蘇)有限公司では、6S(整理・整頓・清潔・清掃・躰・セーフティ)活動の一環として社員全員での工場内とその周辺の清掃を開始しました。



役員メッセージ



リケンテクノス株式会社
執行役員
PT. RIKEN INDONESIA 取締役社長
佐藤 敏幸

PT. RIKEN INDONESIA (通称: RAPINDO)は1995年の創立以来、社会および地域の皆様とのかかわりを大切にして活動を行っています。毎年のレバランには、地域の皆様との交流を深めるために、各種財団を通して、孤児の方への支援を行っております。また、毎年の犠牲際(ムスリムのお祭り)には、牛、羊を寄付して、村民とともに犠牲際を祝っております。昨年度は、MM2100工業団地に協力して、マングローブの植樹活動を支援しました、今年度はRAPINDO独自に計画して、マングローブの植樹およびその近隣の村への支援を実施しております。これからも、地域の方々とのふれあいを大切にし、地域発展のための活動、環境保護等の活動を積極的に行ってまいります。

● PT. RIKEN INDONESIAの取り組み

インドネシアのPT. RIKEN INDONESIAでは、マングローブの植樹活動を行っています。2018年は、繰り返し洪水が起き、貧しい人々が多く住むPantai Bahagia村で実施しました。村までは、川に沿って10人乗りほどの小さなボートで約2時間かけて向かいます。村の人々は炎天下の中、幼い子供たちと一緒にテントを張って迎えてくれました。PT. RIKEN INDONESIAの社員は、約100本ほどの苗木を植え、3,000本のマングローブの木を寄付しました。

〈村の子供たちへのプレゼント贈呈〉



プレゼントの筆記用具と水、お菓子を詰め込んだリュックを80個用意しました。



お礼に、子どもたちが整列して歌を歌ったりした後、プレゼントを全員に配りました。



〈マングローブ植樹〉



3,000本もの苗木を寄付しました。



環境保護の団体が事前に立ててくれた支柱に、1本ずつ苗木を結び付けて植えました。

● 次世代の応援

リケンテクノスは、次世代を応援するため、「夢らぼ」という番組を2015年4月より制作しています。番組でご紹介する学生たちは、皆エネルギーに満ち溢れ、高い志を持っています。彼らを突き動かすものは、何なのか?夢を抱くに至ったそのルーツとは何なのか?そこに迫っていきます。

彼らの夢は、まだ道半ばです。試行錯誤を繰り返しながら何とか進んでいく様は、まさに「夢の実験室」。

どんな未来を切り開いていくのか、彼らの活動から目が離せません。リケンテクノスは科学の力のチャレンジメーカーとして、これからも頑張る学生を応援します。



しぶえ れい 江 伶 さん

① 夢らぼに出演しての感想

“宇宙生物学”という一見ヘンテコな学問に対するお話をさせていただきましたが、自分の周囲で反響がとても大きかったことに驚きました。「地球外生命体探査の研究なんてあるんだ!」、「地球上の生物ってみんな同じ祖先から生まれたのを知らなかった!」などの意見が多かったです。夢らぼを通じて、自分を発信し、微力ながら周りを感化でき、かつこの新しい学問の認知度を向上させる機会をいただけて大変光栄でした。



② 今の活動、今後の活動

私は地球最古の生物に関する研究をしています。その生物は現存の地球上の全生物の祖先とされているのですが、タンパク質の還元と解析によってその姿と生育環境の推定を試みています。



夢らぼ収録時は学部生でしたが、その頃に祖先生物が用いていたとされるタンパク質の還元に成功し、その結果が2018年1月に英総合オンライン学術誌[Scientific Reports]に主著論文として掲載されました。

現在は大学院での研究の傍ら、学会発表も行い、2018年6月の「日本蛋白質科学会」ではポスター賞を受賞しました。

9月には、世界最大の極限環境生物に関する学会「extremophiles 2018」と、JAXAの派遣学生として「国際宇宙会議(IAC)」でも成果を発表させていただきます。



宇宙生物学に出会えたことで、理系への転身、アラスカ留学、海外学術誌への論文投稿など様々な経験ができました。

今後も研究に邁進するとともに、将来は生命の起源の研究を宇宙にまで広げ、地球外生命体探査を行いたいです。

きむら ゆうすけ 木村 友輔 さん

① 夢らぼに出演しての感想

実際にテレビに出ることは緊張しましたが親族や友達が「観たよ!」と喜んでくれたり、自分の活動に共感してくれたのでとても嬉しかったです。



② 今の活動、今後の活動

現在はサッカーの指導者のための練習メニュー共有サイト「シェアトレ」を運営しています。月に6万人の方に利用していただけており、適切な練習メニューが見つかるだけでなく指導法やトレーニングの組み方のコツを伝えるコラムなども無料で配信しています。野球版のリリースも行い、今後もシェアトレを広めていきますが、スポーツ以外のサービスにも挑戦してみたいと考えています。今興味があるのは「自分のやりたいことを明確にする」



サービスで、ミレニウム世代の「やりたいことがわからない」という人の課題を解決するサービスを考えています。今後も人々の生活を豊かにし、貢献できるような自分なりのサービスを作っていきたいです。

お二人の活動についてはこちらから

www.yume-lab.jp

今までに出演された学生の皆さん

 <p>#53: 木村 友輔 筑波大学 体育専門学第 2年</p>	 <p>#54: 鈴木 野々香 琉球大学 医学部医学科 2年</p>	 <p>#55: 篠崎 沙恵 早稲田大学 スポーツ科学部スポーツ科学科 4年</p>	 <p>#56: 寺本 将行 大阪大学 医学部医学科 6年</p>
 <p>#57: 谷屋 吏花 神戸女学院大学 文学部総合文学科 3年</p>	 <p>#58: 嘉陽 宗一郎 琉球大学 観光産業科学部観光科学科 4年</p>	 <p>#59: 一場 翔貴 法政大学 法学部国際法科学科 4年</p>	 <p>#60: 山浦 未陽 慶應義塾大学 商学情報学部 2年</p>
 <p>#61: 安達 健二 大阪府立大学 工学部光電子情報専攻修士 2年</p>	 <p>#62: 八村 美璃 中央大学 法学部法律科 3年</p>	 <p>#63: 戸塚 佑太 岡山大学 工学部情報科学科 3年</p>	 <p>#64: 都築 則彦 千葉大学 理学部物理学科 4年</p>
 <p>#65: 浜田 愛音 東京国際フランス学園 2年</p>	 <p>#66: 佐藤 匠 立教大学 コミュニティ福祉学部 3年</p>	 <p>#67: ミランダ・タイソン ハーバード大学 東アジア研究学部 4年</p>	 <p>#68: 桑原 元芳 中央大学 総合政策学部政策科学科 3年</p>
 <p>#69: 名嘉真 由記 高知大学 農学部国際文化科学科 4年</p>	 <p>#70: 安原 大貴 立命館大学 理工学部建築都市デザイン科学科 3年</p>	 <p>#71: 中澤 歩 京都大学 教育学部 2年</p>	 <p>#72: 坪井 俊輔 横浜国立大学 理工学部機械工科学科 4年</p>
 <p>#73: 守田 勲 中央大学 商学部経営科学科 4年</p>	 <p>#74: 倉田 敏宏 鳥取県立大学 総合政策学部総合政策科学科 4年</p>	 <p>#75: 範 東洋彦 佐賀大学 経済学部経営科学科 4年</p>	 <p>#76: 平松 雅矢 同志社大学 経済学部経済科学科 4年</p>
 <p>#77: 大岡 明香里 甲南大学 法学部法科学科 2年</p>	 <p>#78: 渋谷 伶 早稲田大学 人間科学部人間環境化学科 4年</p>		

RIKEN TECHNOS Presents

— "チャレンジ"する学生の想いに迫る—

夢らぼ

DREAM LABORATORY

番組ナビゲーター 永田 レイナ 小貴 諒

番組テーマソング「ゆめいろ」小貴 諒

番組映像は公式HPで配信!
www.yume-lab.jp

毎週土曜 夕方6時55分 放送

BS12 トウエルビ



“科学の力のチャレンジャー”
リケンテクノス株式会社は、
頑張る学生を
応援しています!

制作著作: BS12ch TweetV
リケンテクノス株式会社
実動プロジェクト
制作協力: JFN 賢家屋

従業員とのかかわり

リケンテクノスグループでは、社員一人ひとりが「仕事を通じて成長する」ことを目指しています。また、より良い環境で働くことができるよう様々な制度を設けています。

管理本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社
取締役 常務執行役員
管理本部長
いりえ じゅんじ
入江 淳二

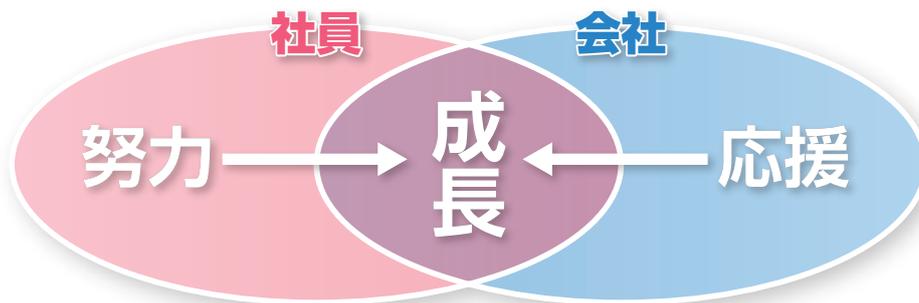
リケンテクノスでは現3か年中期経営計画において主要課題のひとつに「戦略的な人材育成による企業基盤の強化」を掲げております。2018年度に人事制度を一新し、全従業員が積極的にチャレンジできる仕組み作りを標榜しております。また、「企業の成長のためには従業員の成長は不可欠である」との信念のもと、管理職による部下育成強化にも取り組んでおります。加速度的にグローバル化が進む環境下、リケンテクノスも例外ではありません。国内外で活躍できる人材をひとりでも多く輩出することが、ステークホルダーの皆様の期待に応える企業価値向上につながると確信し、管理本部は取り組んでまいります。

● 人材育成の考え方

リケンテクノスの人材育成に対する基本的な考え方は、「社員一人ひとりが「求める力:自立・創造・実践・自律」を発揮できる最適な仕事や環境の「場」を提供する」そして、「社員の「成長」と「活躍」を応援し、それを会社の発展につなげていく」というものです。

社員と会社は、ともに成長する関係にあります。社員が会社が求める人材像にかなった人材へと成長することより、結果として会社も成長していきます。

● 社員と会社の関係



そのために、会社はキャッチフレーズとして、

「私たちは応援します! 自ら成長しようと努力する意志のある人を!」

を掲げ、社員の成長を応援しています。

● 新人事制度

2018年4月より、新人事制度を導入いたしました。

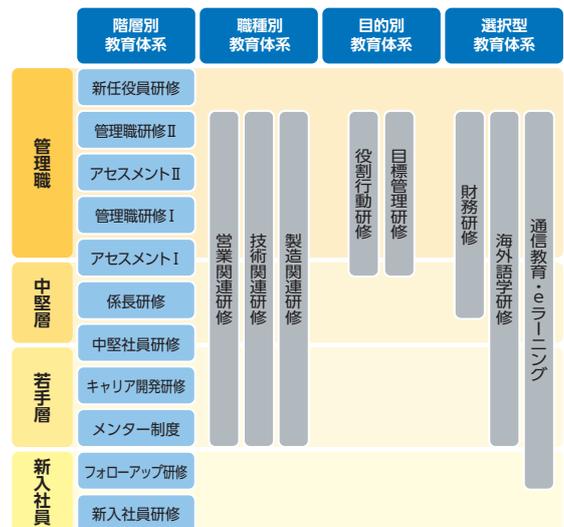
● ねらい

- ・年功制を是正し、全従業員が積極的にチャレンジできる仕組み作りと企業風土を醸成する。
- ・人材育成の一環として、上司が部下をきちんと教育・指導していくことを重視し、強化していく。
- ・自ら成長しようという意志のある人に対し、いつでも教育の場を提供できる環境作りを行う。

● 内容

- ・管理職については、職務遂行能力(保有能力)を処遇の基礎とする「職能資格制度」から、役割責任と職務(ポスト)を処遇の基礎とする「役割等級制度」へと変更しました。
- ・一般社員については、能力を積み重ねていく成長段階でもあることから「職能資格制度」を維持しつつ、役割行動を評価する仕組みを改定し、今まで以上に「仕事を通じて成長する」ことを図ります。
- ・管理職による部下育成強化のため、評価制度、教育制度を改定しました。
- ・若手社員が積極的にチャレンジできる仕組み作りの一環として、昇格要件を大幅に変更しました。
- ・女性活躍推進の観点より、女性社員がより活躍できる機会を創出します。
- ・キャリア開発研修、eラーニングなど教育制度の充実を図り、社員が成長するためにいつでも積極的に教育を受け、成長できる体制を整備します。

● リケンテクノス教育プログラム



● 経営層の育成

当社では、経営層の育成にも力を入れています。多様な考え方を知り、「使える経営スキル」を習得する機会を提供すべく、グロービス・マネジメント・スクールへの派遣も実施しています。

Voice



経営企画部 部長代理 おがわ ともまさ 小川 智三さん

グロービス・マネジメント・スクール受講の機会を与えて貰い、最初に感じたのは「これまでの自分の判断は、その場の思い付きや経験のみで行っている」ということでした。クリティカルシンキング、アカウントティング、マーケティングの3講座を受講することで、以前より論理的に物事を判断できるようになったと実感しております。



経営企画部 経営管理グループ グループリーダー おおくぼ だいすけ 大久保 大輔さん

受講科目は様々ですが、学んでいるのは「コミュニケーション」と考えています。テーマについて受講生同士で抜け漏れが無いよう網羅的に考え、仮説と検証を繰り返す。精度の高い論点で人に共感、理解してもらう。こういった訓練をしています。

実務はまさしく社内外とのコミュニケーション。「何をしたいのか」お互いの理解を深めて業務をすすめていきたいと思っております。

● 経営理念の浸透

経営理念である「リケンテクノス ウェイ」を社員に浸透させるため、4つの制度を設けています。そのうちのひとつ、「サンキューカード」制度は、社員同士で感謝の気持ちを表すもので、海外拠点でも導入が進んでいます。サンキューカードを多くもらった社員および、多く贈った社員への表彰を行っています。2017年度の実績は、群馬工場が上位を独占しました。

● 国内



内田工場長



内田工場長

贈られた人NO1

群馬工場 フィルム製造課
柳田 澄夫さん

贈った人NO1

群馬工場 フィルム製造課
吉田 竜さん



左から、北村 文政さん、柳田 澄夫さん、吉田 竜さん、渡辺 遵二さん

贈られた人

- NO1 柳田 澄夫さん (群馬工場 フィルム製造課)
- NO2 北村 文政さん (群馬工場 フィルム製造課)
- NO3 渡辺 遵二さん (群馬工場 総務課)

贈った人

- NO1 吉田 竜さん (群馬工場 フィルム製造課)

● 海外

海外でもサンキューカード制度を実施しています。米国のRIMTEC CORPORATIONでも表彰式が開催されました。



サンキューカードを贈られたトップ3の方々
左から、ディヴィッド・ウィルソンさん、リッチ・リンデさん、アンディ・ロイヤーさん



サンキューカードを贈ったトップ10入りの方々
左から、ディヴィッド・グルズィボウスキーさん、ポウル・スモロックさん、ジェイソン・ウエイグさん、アート・ミヌートさん、レイモンド・ジョンソン・サードさん、シュフィ・ワンさん、キース・ブランチさん

● チャレンジプロジェクト

「リケンテクノス ウェイ」浸透の一環として、「チャレンジプロジェクト」制度があります。

これは、若手を中心にプロジェクトを立ち上げる機会を提供する制度で、2017年度は2つのテーマを実施し、終了報告をいたしました。

【テーマ：マーケティング改革大作戦】
コンパウンドの新製品リクロマーを題材に、今までにないWEBサイト構成やWEBマーケティングを実験的に導入し、効果の検証を行いました。

- メンバー
- 技術部門より2名
 - システム開発部門より1名
 - 経営企画部門より1名



↑ QRコード入りの名刺



↑ リクロマー特設Webサイト

【テーマ：THE BAG FOR WORKING WOMAN】
触感のよいフィルムの新製品であるACT Leather®を活かした、女性用ビジネスバッグを作りました。

- メンバー
- 営業職女性2名

ACT Leather®の耐久性

試験項目	ACT Leather®	内装のみ皮革	内装のみ合成革
摩擦試験 (JIS S 5014)	5.0	3.0	3.0
摩耗試験 (JIS S 5014)	5.0	2.0	2.0
耐水性試験 (JIS S 5014)	優等品	優等品	優等品
耐油性試験 (JIS S 5014)	優等品	優等品	優等品



↑ ACT Leather®を使用したバッグ

● 子育て支援

● 育児休業制度

最長2年間の休業ができます。さらに育児休業の一定の期間は有給としています。2017年度は、4名の社員が利用しました。

● 育児短時間勤務制度

育児をしている社員が、1日6時間まで勤務時間を短縮できます。家庭や保育園などの個別事情に応じた働き方が選べます。小学校入学前まで利用できる制度です。2017年度は、2名の社員が利用しました。

● 社員の多様性への対応

当社は社員の多様性、人格、個性を尊重し、人権および雇用機会均等などにも配慮をしています。当社では女性が活躍できるような様々な取り組みをしており、現在、女性管理職もおります。また、外国人の採用も積極的に行っています。

安全衛生活動

安全衛生の考え方

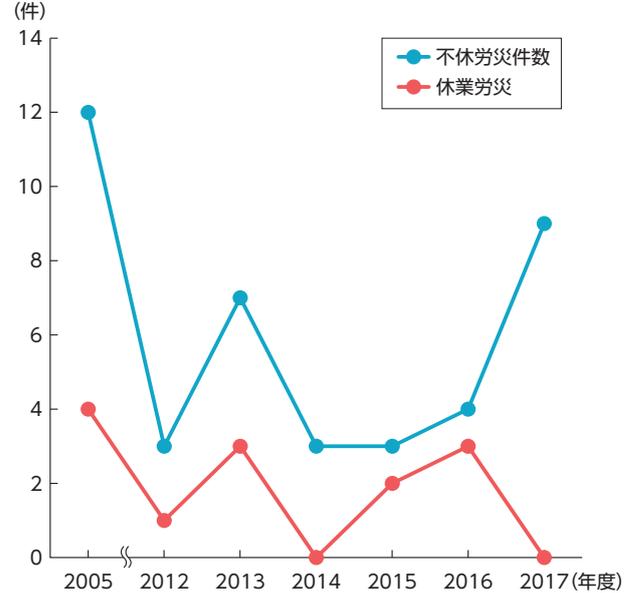
当社は、人間尊重を基本とし労働安全衛生を企業活動の最も重要な基盤のひとつと考え、健康で安全な職場環境の維持向上に努めます。OSHMS(労働安全マネジメントシステム)に沿った活動をしています。

「リスクアセスメント」による

危険・有害源撲滅活動の定着

2003年にリスクアセスメント(RA)を導入後、職場に潜在している危険・有害要因を排除・隔離し、リスクを低減させる未然防止型の改善活動が定着しました。「災害ゼロ」から「危険ゼロ」となるように、安全意識向上と危険改善・システム改善の活動を全員参加で進めています。

休業労災件数



RIKEN VIETNAMでの消防訓練



活動の見直し

2017年度は、「災害ゼロ」に向け、「指差呼称の推進」「安全提案表彰の実施」「危険体験機器を用いた教育」「ヒヤリハット報告強調月間」等を実施し、休業労災[0]となりましたが、不休労災は9件でした。事故の型は「ぶつかり」「転倒」「挟まれ」で、原因は「KY(危険予知活動)不足」

「RA遅れ」です。具体的には雪道転倒、階段転倒等が発生しました。

2018年度は、「RAの推進」「指差呼称の推進」「過去の労災ビジュアルパネルを利用した安全標語の唱和」「安全ルールの総点検」「安全衛生基礎(常識)の再教育」を中心に活動いたします。



危険体験機器を利用した安全教育



● 2018年入社の皆さん

リケンテクノスの未来を担う新入社員の皆さんに、リケンテクノスグループの一員としての自覚を持って働いてもらうため、リケンテクノス ウェイのコアバリューにある「仕事を楽しみワクワクする」をテーマに、「○○だったら、ワクワク」という用紙に、自分なりの「○○だったら」を書いてもらいました。



● フォローアップ研修

入社して3か月目に、振り返りとフォローアップを目的として、2日間のフォローアップ研修を実施しています。

講習を受講するだけでなく、入社後3か月間の業務内容についてグループワークを行い、発表します。研修のカリキュラムを通じて、多くの学びや気づきを得たようです。



受講の様子



発表の様子



環境管理活動

製造本部長メッセージ



リケンテクノス株式会社
執行役員
製造本部長
おしあき ひろあき
奥水 宏人

製造本部は、グローバルで戦っている中、世界同一品質および安定供給をさらに充実させるために様々な取り組みを実施しています。例えば、積極的な海外拠点への人材派遣、技能オリンピックによる生産技術の向上、TPM導入による3ゼロ達成(クレーム・労働災害・重大設備事故)、グローバルに活躍できる人材の育成などです。さらに、各工場では、生産効率向上、コスト削減、短納期化を目標にIoTおよびAI導入を段階的に進めてまいります。

環境管理活動としては、省エネ化、廃棄物の削減、化学物質の適正管理推進、工場隣接地域の清掃等の地域美化に取り組んでおります。

環境方針

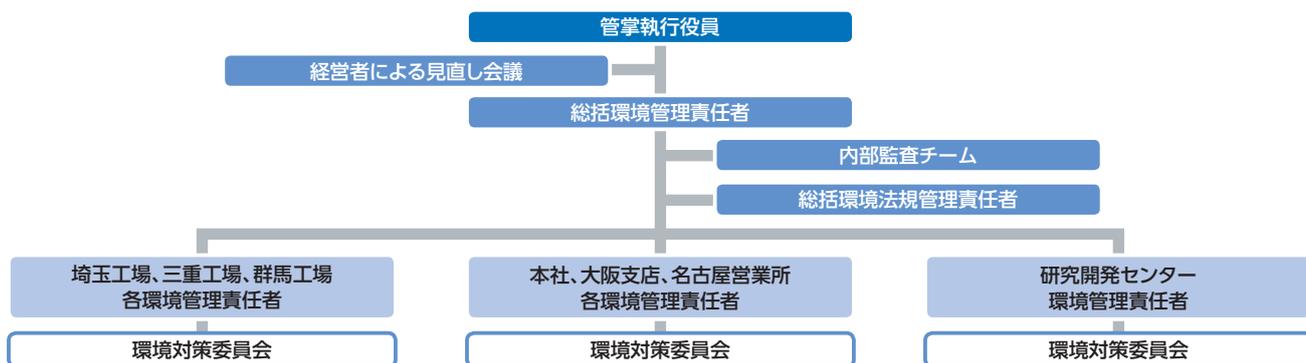
あらゆる企業活動において環境との調和に配慮し、地球環境の保全と持続可能な社会を実現するために、環境マネジメントシステムを構築し、全員参加のもとに次のことを実施します。

- ① 事業活動において、環境関連法規およびその他の合意事項の遵守のみならず、自ら規定類を定め、環境管理レベルの継続的改善、環境汚染の予防および環境保全の支援を推進します。
- ② 安全性の確保された原材料を使用し、省エネ・省資源型製品、リサイクル適合製品、生物多様性および生態系への負荷の少ない製品等の環境に配慮した、様々な素材のプラスチック製品等を社会に供給します。
- ③ 持続可能な資源の利用、気候変動の緩和と対応に関して、可能な限り無駄を削減し、原材料の有効活用、使用エネルギーの極小化に努め、二酸化炭素排出量の削減と産業廃棄物の削減を行い、地球環境・生物多様性および生態系への負荷を軽減します。
- ④ 環境方針を含め社内規定類を文書化し、社員への教育・啓蒙活動により、継続的な環境保全活動の定着化を図ります。
- ⑤ 環境方針達成のために環境目的およびできる限り数値化した目標を設定し、定期的に自己評価を行い、進捗を適時管理します。
- ⑥ 以上の活動を当社グループの活動に結び付け、各拠点における地域環境・生物多様性および生態系保全に最大の配慮を行い、安全な操業を確保します。
- ⑦ 適切かつ正確な情報開示を行い社会からの信頼と理解を得ることに努めます。

● 環境マネジメントシステム

● 環境マネジメントシステム組織図

管掌執行役員がトップに立ち、総括環境管理責任者の指揮のもと、各サイトに環境管理責任者を置き環境マネジメントシステムを構築しています。



● 推進体制

環境マネジメントシステムを推進するため、主要な会議、委員会等の構成メンバー、機能を明確にしています。

会議、委員会名	構成メンバー	機能
経営者による環境マネジメント見直し会議	全取締役、全執行役員 総括環境管理責任者	方針、目的および環境マネジメントシステムの妥当性評価
内部環境監査チーム	有資格内部監査員	適合性監査の実施
環境対策委員会	環境管理責任者、各部門長、各部門委員	環境目的・目標の設定、是正処置・予防処置の審議、環境問題の審議

● 総括環境管理責任者と環境管理責任者の役割

全社総括管理と各サイト管理の責任を明確にしています。

責任者名	役職名	役割
総括環境管理責任者	マネジメントシステム部長	全社の環境マネジメントシステムの構築・実施・維持
総括環境法規管理責任者	マネジメントシステム部長	環境関係法規等の管理
環境管理責任者	サイトの責任者(工場長等)	サイトの環境マネジメントシステムの構築・実施・維持

● 緊急時対応

各サイト・各部門で想定しうる緊急事態を定め、緊急事態対応一覧表を作成し、定期的に訓練を実施しています。

当社は多量の化学物質・消防法危険物を原材料として購入・使用しています。そのため、化学物質の社外への流出防止および消防法危険物起因の火災予防を最重点課題として取り組んでいます。2017年度は原材料の近隣への飛散があり、清掃等を実施し原状の回復を行いました。

● 品質・環境の監査の体制

(1) 内部監査

総括環境管理責任者の指示のもと、約100名の内部監査員によって毎年1回、品質、製品安全、化学物質管理をはじめとした環境マネジメントシステムの内部監査を行っています。2017年度は61部署で監査が実施され、40件の是正処置要求書が発行され、観察事項を含めると260件の指摘件数がありました。指摘事項は、文書管理、記録管理、設備管理、責任者が曖昧な手順が見つかり是正処置を実施しました。是正の継続を確認するとともにマネジメントシステムの改善・確実な実施を図っていきます。

(2) 外部監査

外部審査機関のISO9001・14001審査機関による2015年度版への移行審査を、本社、埼玉工場を対象に受審しました。不適合0件、改善事項8件の指摘がありました。指摘がありました倉庫管理について改善しました。また、2017年度は22社の顧客監査を受けました。指摘事項につきましては、適切に改善を実施しました。

● ISO14001 (2015) 認証取得

環境との調和に配慮した企業活動を通じ、豊かな社会の実現に貢献し、すべてのステークホルダーからの信頼に叶え得る企業の構築に取り組んでいます。

環境方針を設定し、全社全部門にて同規格を認証取得しています。

初回登録 2001年10月31日 有効期限 2019年8月30日

活動結果の概要

2017年度環境目標と実績

当社は毎年環境方針を基に、事業環境に見合った環境目標を設定し、改善活動を進め、二酸化炭素(以下CO₂)の排出量削減、産業廃棄物の排出量削減、そして化学物質の管

理強化を主テーマとして全社横断的に取り組んでいます。

2017年度は、全社各部署合計で182件の目標が設定され、120件(66%)が達成されました。

(1)エネルギー源使用量削減

目標設定件数	達成件数	目標	結果
76	50(66%)	①電気使用量の生産量比 2012年度比5%削減 ②重油使用量の生産量比 2012年度比5%削減 ③CO ₂ 排出量の生産量比 2012年度比5%削減 ④総CO ₂ 排出量 2012年度比5%削減	①6.3%削減で達成 ②32%削減で達成 ③7.5%削減で達成 ④3.2%増加で未達成

(2)廃棄物削減

目標設定件数	達成件数	目標	結果
45	20(44%)	単純(埋立・焼却)廃棄物量の総生産量比:0.15%以下 総廃棄物量の生産量比:4%以下	埋立・焼却廃棄物量の総生産量比は0.17%で未達成 総廃棄物量の生産量比は3.8%で達成

(3)①化学物質管理の強化と②環境配慮型製品の開発

	目標設定件数	達成件数	目標	結果
①	19	17(89%)	独自に指定した化学物質の使用削減。環境配慮製品の開発。	①化管法第一種指定化学物質の2017年度使用量は、昨年度の9%削減。 ②リサイクル好適材は、2017年度売上量は、昨年度の6%増加。
②	25	18(72%)		

リケンテクノスの環境負荷の状況

当社の事業活動からは、産業廃棄物の排出、温室効果ガス(CO₂)の排出、化学物質の排出・移動が大きな環境負荷項目として挙げられます。各々排出削減や適正管理に努めています。リケンテクノス(単体)+リケンファブロ(埼玉、三重)での環境負荷実態は以下の通りです。

● 生産に係わる製品1トン当たりのCO₂負荷量(2017年度)

CO ₂ 負荷量(t-CO ₂ /t)	
コンパウンド	0.23
フィルム	0.97
食品用ラップ	0.55

● ストック汚染・公害防止の取り組み

各サイトでは、環境法規制および自主規制監視項目について定期的に測定を実施しています。項目として排ガス、地下水、騒音、振動、臭気、放射線、粉塵などがあり、特に騒音対策に配慮しています。各工場では近隣住民の皆様と懇談会を定期的に開催させていただき、環境測定値の公開、工場内の査察の実施を通じ当社の事業活動へのご理解をいただいています。

● 省エネルギーと温室効果ガスの排出削減

当社は埼玉工場、三重工場が第一種エネルギー管理指定工場、群馬工場は第二種エネルギー管理指定工場に指定されています。

当社の事業活動から生じる温室効果ガス*1の主なものはCO₂です。

設備の稼働効率向上、蓄熱式脱臭炉導入、空調機のデマンド制御*2導入、工業用圧縮空気や蒸気の漏れ防止管理、省エネ照明へ切替え等の省エネ活動を推進しています。

長年、CO₂排出量削減に主眼をおいて目標を展開してきましたが、近年、電力に関するCO₂換算係数が大きく変動することから、2014年度より、2012年度を基年度として、エネルギー源使用量の生産量比を、毎年1%削減することを目標といたしました。2017年度は2012年度比で5%目標のところ、電気使用量の生産量比6.3%削減、重油使用量の生産量比32%削減を達成しました。

2015年12月、群馬工場にて重油ボイラーから都市ガスボイラーに変更したことが、重油使用量削減やCO₂排

出量の削減、大気汚染の低減につながっています。

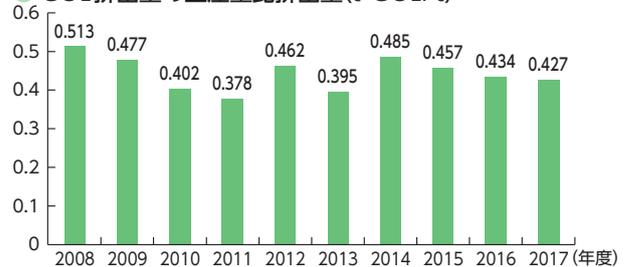
2013年3月に、群馬工場の隣接地で、再生可能エネルギーである太陽光発電設備が稼働を開始しています。

2017年度は、群馬工場に約7万kWh供給し、約73万kWhを売電しました。



リケンテクノス株式会社
ソーラー発電所(群馬工場の敷地内)

● CO₂排出量の生産量比排出量(t-CO₂/t)



* 2010年度から調整後の排出係数を使用した値です。

*1 温室効果ガスは、埼玉工場、三重工場、群馬工場、研究開発センター、本社および各営業拠点で使用した電気、重油等の消費によるCO₂排出量を算出しました。2005年より本社を、2008年度より各営業拠点を含みCO₂排出量を計上しています。物流における石油燃料消費のCO₂排出量は除いています。

*2 空調機のデマンド制御とは、電力会社との契約電力の最大値に近づいた時、自動的に空調機の圧縮機を停止させ電力の消費を抑える制御方法をいいます。

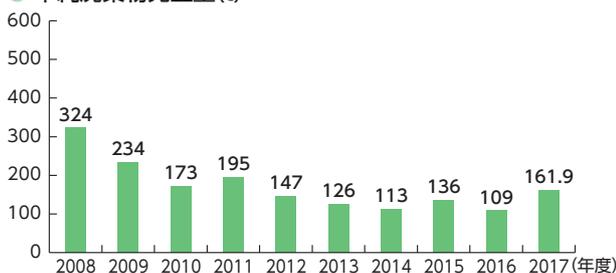
● 廃棄物の削減

当社は、製造段階で発生する単純(埋立・焼却)廃棄物の削減を環境管理活動の主要課題に位置づけ、2014年度から新たな目標である「単純廃棄物量の生産量比0.3%から0.15%以下、総廃棄物量の生産量比5%から4%以下に抑えること」に取り組むこととしました。工程改善による歩留り向上等により、廃棄物の発生そのものの抑制を図るとともに、発生した廃棄物に関しては分別を徹底し、マテリ

アルリサイクル、サーマルリサイクル、RPF(プラスチック由来の固形燃料)、セメント原料化等の有効利用への転換を図っています。

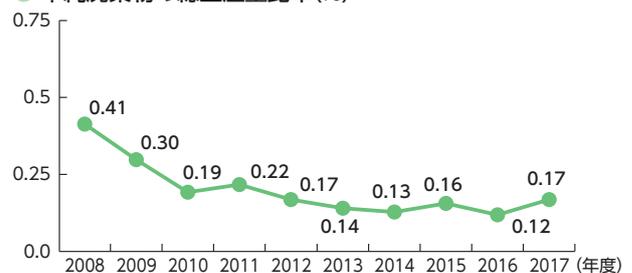
単純廃棄物量の総生産量比は0.17%と目標未達成に終わりましたが、総廃棄物量の生産量比は3.8%と、目標達成しました。

● 単純廃棄物発生量(t)



*埼玉工場、三重工場、群馬工場、研究開発センター(東京)で発生した単純廃棄物量です。

● 単純廃棄物の総生産量比率(%)





● 化学物質の適正管理

当社は、従来から化学物質審査規制法、労働安全衛生法や消防法等に基づき、化学物質管理を実施しています。

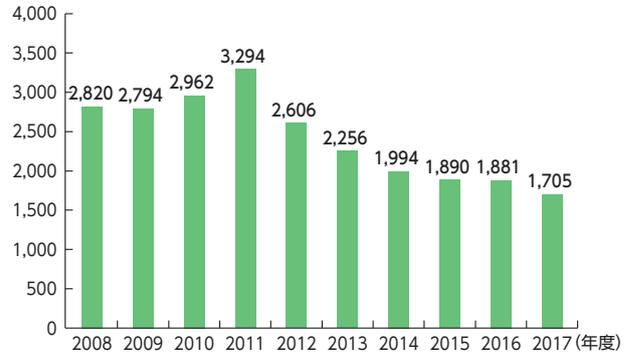
1999年度には管理徹底のため集計システムを構築し、さらに2001年4月施行の化学物質排出把握管理促進法PRTR制度に対応できる体制を整えました。

2009年10月には、化学物質排出把握管理促進法が改正施行され、PRTR対象化学物質の種類変更があり対応しました。

そのため、2010年度より新対象化学物質の使用や排出量等の集計を実施し、2011年度には、A重油に含まれるメチルナフタレン使用量も集計に追加しています。2011年度は、当社グループ会社のRIKEN(THAILAND)CO., LTD.が洪水被害に遭ったことにより、日本国内において生産支援

を行った結果、化管法第一種指定化学物質の使用量が著しく増加しました。2012年以降は、著しい増減はありません。2017年度のPRTR対象化学物質の使用種類数は22種類で、1トン以上使用し国へ届け出したものは7種類でした。

● PRTR対象化学物質の使用量(t)



● PCB廃棄物の保管状況

2001年7月、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」(PCB*1特別措置法)が施行されました。埼玉工場、三重工場、研究開発センター(東京)の3事業所で保管していたPCB廃棄物については、埼玉工場の一部を除いて処置完了しました。

また、1989年以前の重電機器には微量のPCBが含有された絶縁油が使用されている可能性が高いため、使用中のコンデンサ・トランスを順次、調査分析を進めています。

*1 PCB: PolyChlorinated Biphenyl(ポリ塩化ビフェニル)の略称

事業所名	PCB廃棄物	保管と処理状況
埼玉工場	高圧コンデンサ 15台(高濃度)	処理申請中
	高圧トランス 2台(低濃度)	
	PCB含有廃水・廃油 1,446l(低濃度)	2015年度処理完了
三重工場	高圧トランス 4台(低濃度)	2014年度処理完了
	PCB含有廃油 350l(低濃度)	
	PCB含有ウエス 300g(低濃度)	
研究開発センター(東京)	高圧コンデンサ 12台(高濃度)	2013年度処理完了
	高圧トランス 1台(低濃度)	
	PCB含有廃油 330l(低濃度)	
	PCB含有ウエス 15kg(低濃度)	

● 従業員の環境教育・啓発の実施状況

2008年度から、エネルギーの大切さ、地球温暖化(CO₂排出削減)への意識向上を図ることを目的に、従業員とその家族を対象として、日常生活における「エコライフDAY」アンケートを実施しています。2017年度は従業員とその家族から(夏:1371名、冬:1229名)回答が寄せられ、一人当たりの平均CO₂削減量は(夏:1020g-CO₂/日、冬:1090g-CO₂/日)でした。また、CSR報告書を社員全員に配布し、一人ひとりの活動結果がおよぼす当社全体への影響を理解するよう啓発しています。

	参加者数(名)	削減量(g-CO ₂ /人・日)
2014年度夏	1,474	760
2014年度冬	1,480	960
2015年度夏	1,497	920
2015年度冬	1,365	960
2016年度夏	1,267	950
2016年度冬	1,360	1,010
2017年度夏	1,371	1,020
2017年度冬	1,229	1,090

● 事業活動に係わる環境法規・協定

各生産拠点、各営業拠点での遵守すべき環境法規・協定等およびその概要を「環境適用法規基準」にて明確にし、環境法規の遵守を徹底しています。2015~2017年度は、フロン排出抑制法遵守に力を入れました。

また、埼玉県地球温暖化対策計画制度・目標設定型排出量取引制度への対応を行い、第1次計画のCO₂削減目標(基準年の6%削減)をクリアし、第2次計画のCO₂削減目標(基準年の13%削減)も順調に推移しています。

● 特定化学物質規制への対応

原材料管理については、欧州におけるREACH*1への対応、また日本における化学物質に関する諸規制の改正への対応をより充実するため、化学物質含有情報シートを改正し、2015年10月からRoHS2*2の10物質(従来のRoHS6物質に加え2019年7月規制のフタル酸エステル類4物質)の測定データ、微量残留化学物質を含めた規制対象化学物質の含有情報を収集することにしました。そして関係会社への適用も明確にし、「リケンテクノスグループグリーン調達基準」としました。

お客様に安心・安全な商品を提供することは、メーカーの使命であり、使用する化学物質の安全性を確保すること

は当社の重要課題として捉え、2006年度に全社横断的な組織である「化学物質管理委員会」を新たに設置しました。『化学物質管理指針』を設定し、法律で製造・使用が禁止されている化学物質はもちろん、化学物質審査規制法の監視化学物質なども使用禁止とし、鉛やトルエンなど法律で使用禁止となっていない化学物質についても、労働安全衛生上使用を避けた方が安全と思われるものは、自主的に削減することを明確にいたしました。さらには、新規採用化学物質の審査などを実施し、全社を挙げて安全性最優先の商品を提供する仕組みを構築していきます。

*1 REACH: 欧州における化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規則
 *2 RoHS2: P.26注釈参照下さい。

● 生物多様性

化学物質審査規制法第一種・第二種特定化学物質および監視物質の不使用、PRTR第一種指定化学物質の使用削減等に取り組み、また大気汚染防止法、水質汚染防止法、労働安全衛生法等を遵守して、人への影響、生態系への影響を配慮した製品開発、生産、販売を実施しています。また、工場緑地の整備、森林整備ボランティア活動への参加を行っています。



● 環境会計

当社は、環境保全活動への取り組みに関する会計情報を2006年度より開示しています。

● 2017年度環境会計の集計基準

- (1)集計範囲:リケンテクノス全事業所(単体)
- (2)対象期間:2017年4月1日~2018年3月31日
- (3)参考文献:『環境会計ガイドライン2005年版』(H17.2環境省発行)

● 2017年度環境会計の総括

2017年度は、環境保全コスト投資額約0.9億円、費用額約10億円で合計約10.5億円でした。投資額の内訳は公害防止・地球環境保全・資源循環コストです。費用額ではRoHS指令対応のための分析費用やISO維持活動等があり、環境配慮型製品の研究開発費用が約9.2億円と非常に大きなウエイトを占めています。

活動の結果の環境保全効果として、単純埋立・焼却廃棄物は生産量比0.15%目標に対し0.17%の結果で未達成。総廃棄物量は生産量比4%目標に対し3.8%の結果で達成しました。CO₂排出量については、継続的な省エネ

活動を行いました。2012年度比5%削減目標のところ3.2%増加で未達成でした。生産量の増加が主要因です。一方、電気使用量の生産量比(電気使用量MWh/生産量t)は、2012年度比5%削減目標のところ6.3%削減で達成。重油使用量の生産量比(重油使用量KL/生産量t)は、2012年度比5%削減目標のところ32%削減で達成しました。省エネ活動(省エネ設備投入や効率生産の工夫等)の効果が見られました。

廃プラ等の有価売却・省エネ等による費用削減等で約1,400万円の経済効果を得ることができました。

● 環境保全コスト

単位:千円

分類	調査対象の取り組みの内容	投資額*1	費用額*2
1. 事業エリア内コスト		89,009	92,484
*公害防止コスト	騒音対策工事、飛散防止設備の維持管理	1,252	34,734
*地球環境保全コスト	省エネ設備の導入・改善	87,757	0
*資源循環コスト	産廃処理、リサイクルコスト等	0	57,750
2. 上・下流コスト	製品含有化学物質分析費用	2,728	15,420
3. 管理活動コスト	CSR報告書発行、ISO維持活動(外部審査費用) 排水・VOC分析、構内緑地管理費等	0	15,482
4. 研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発費	0	924,856
5. 社会活動コスト	工場周辺美化活動費、寄付金	0	361
6. 環境損傷対応コスト	土壌調査改質費	0	1,385
合計		91,737	1,049,988

*1 投資額：対象期間中の環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていくもの
*2 費用額：環境保全を目的とした財・サービスの費消によって発生する費用または損失

● 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標	2016年度	2017年度	
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量(GJ)	761,599	798,118	
	種類別エネルギー投入量	電気(MWh)	65,600	69,027
		重油(kl)	2,437	2,478
		都市ガス13A(km ³)	507	550
		ガソリン(kl)	40	42
		軽油(kl)	4	4
	PRTR管理対象物質投入量(t)	1,968	1,706	
	水資源投入量	水道水(m ³)	132,000	118,000
		地下水(m ³)	157,000	179,000
		工業用水(m ³)	8,600	7,700
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量(t-CO ₂)	39,800	41,000	
	PRTR管理対象物質排出量(t)	7.1	7.2	
	PRTR管理対象物質移動量(t)	13.6	10.1	
	廃棄物等総排出量(t)	3,550	3,680	
	廃棄物最終処分量(t)	109	161	
	排水量(m ³)	298,000	285,000	
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	有価リサイクル量(t)	1,800	1,830	
その他の環境保全効果	製品等の輸送量(t・km)	27,139,500	28,738,308	
	輸送に伴うCO ₂ 排出量(t)	4,711	4,988	
	輸送エネルギー(GJ)／生産量(t)	4.68	4.61	

● 環境保全対策に伴う経済効果

単位:千円

効果の内容	金額	
	2016年度	2017年度
プラスチック・紙屑等の再資源化による利益	5,939	7,073
省エネ等による費用削減	6,399	6,964
合計	12,338	14,037

● 資産除去債務について

2018年3月末現在 単位:千円

資産除去債務に関する会計処理は2010年4月1日より適用が開始されました。現時点での環境関連法令規定による資産除去債務を、次のように把握しています。

費用内容	処理費用
建物原状回復費	68,899
石綿使用部位の処理費	31,107
PCB使用設備更新費	0
土壌汚染処理費	60,129
合計	160,135

● リケンテクノスグループ環境データ

● リケンテクノス工場別環境データ

● 埼玉工場

- 敷地面積：58,739m²
- 事業内容：塩化ビニル樹脂をはじめとする各種熱可塑性樹脂のコンパウンド、フィルムおよびラップフィルムの製造
- 従業員：233名

● 三重工場

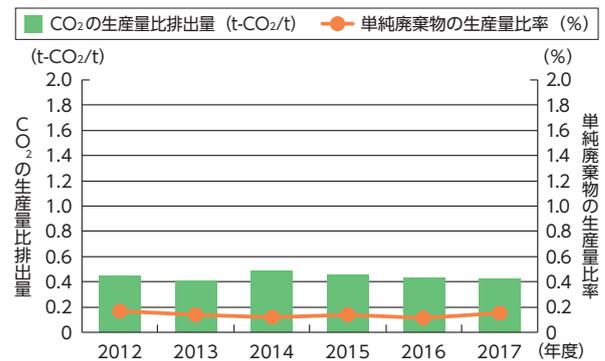
- 敷地面積：55,247m²
- 事業内容：塩化ビニル樹脂をはじめとする各種熱可塑性樹脂のコンパウンド、フィルムおよびラップフィルムの製造
- 従業員：206名

※埼玉工場、三重工場にはリケンファブロ株式会社の活動も含まれています。

● 群馬工場

- 敷地面積：55,904m²
- 事業内容：クリーン環境下での高性能フィルムの製造
- 従業員：41名

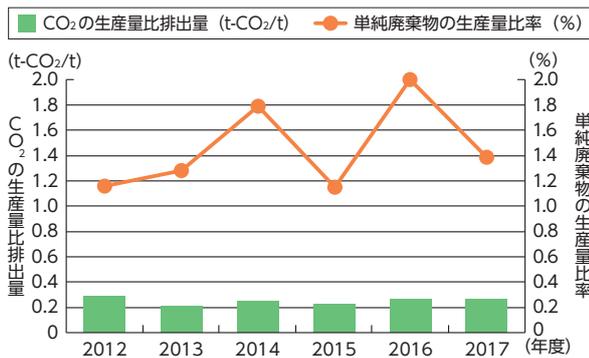
● CO₂の生産量比排出量と単純廃棄物の生産量比率 (埼玉工場、三重工場、群馬工場の合計)



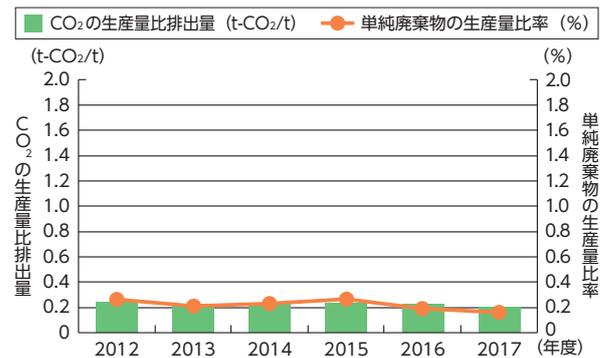
● リケンテクノス関係会社環境データ

① コンパウンド製造会社

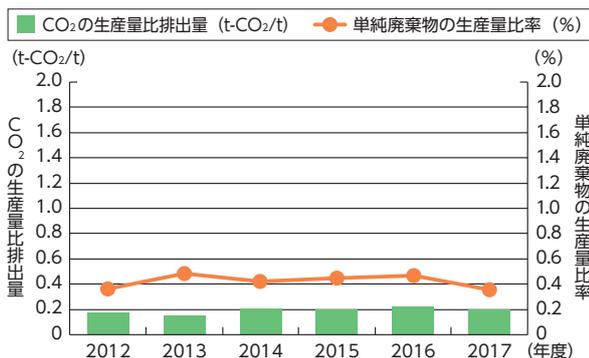
リケンケミカルプロダクツ株式会社 従業員数56名



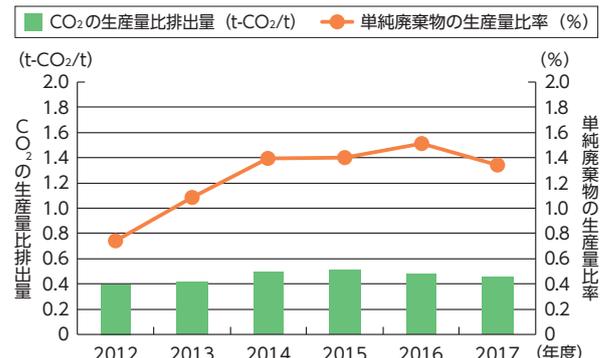
RIKEN (THAILAND) CO., LTD. 従業員数242名



RIMTEC CORPORATION 従業員数97名



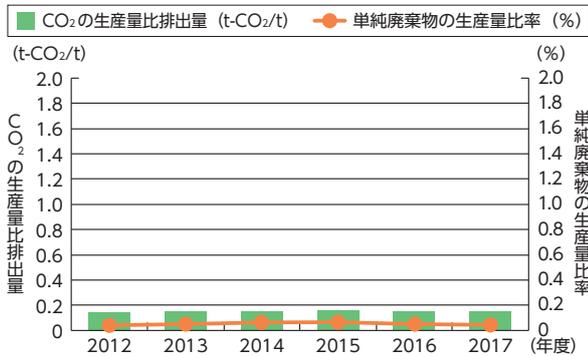
RIKEN ELASTOMERS CORPORATION 従業員数42名



活動結果の概要

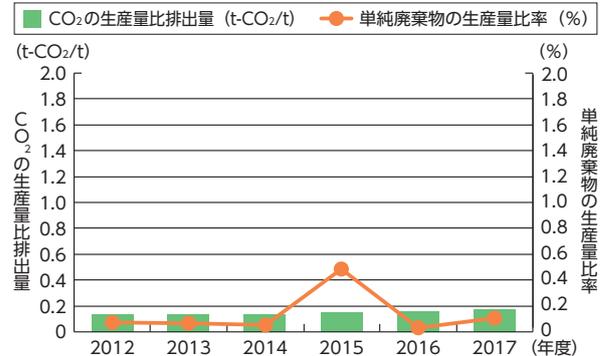
PT. RIKEN INDONESIA

従業員数 202名



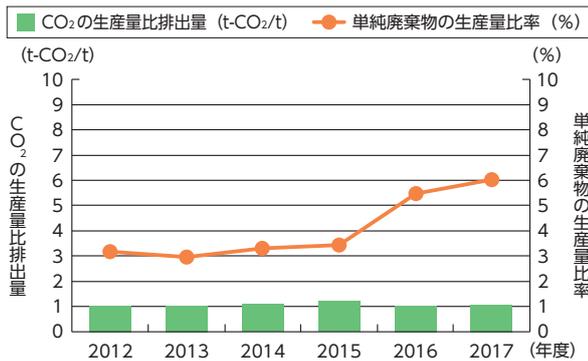
上海理研塑料有限公司

従業員数 126名

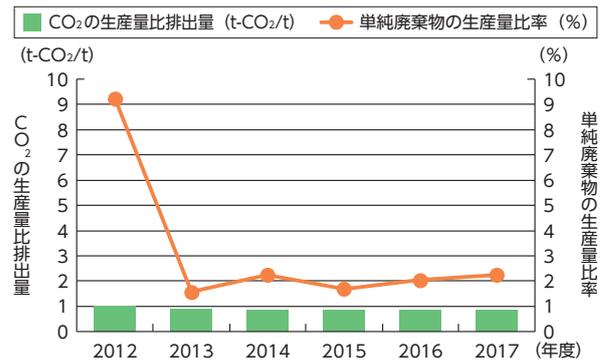


②成形会社

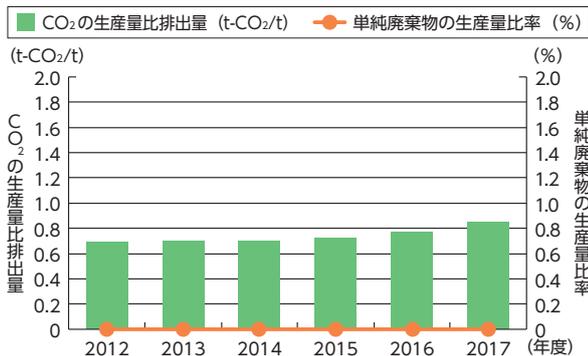
リケンケーブルテクノロジー株式会社 従業員数 70名



株式会社協栄樹脂製作所 従業員数 65名



理研食品包装 (江蘇) 有限公司 従業員数 57名



有識者の意見



アマタ株式会社
シニアコンサルタント
いのまた よういち
猪又 陽一氏

私がリケンテクノスの第三者意見を執筆するのは今年で3回目になります。初年度の2016年は常盤社長が代表に就任されて、3か年中期経営計画がスタートした年でもありました。その前年の2015年、企業を大きく変えるエポックメイキングな出来事が2つございました。それはパリ協定とSDGsです。その影響で国内でのESG投資が加速されたり、企業に求められるものがCSRからサステナビリティへと大転換し始めたのです。貴社も時代の要請に合わせてISO26000やSDGsなどグローバルスタンダードを意識した報告書へと大きく進化をしている中、昨年の第三者意見では、「①中期経営計画とCSRの一体化」と「②サプライチェーン上のCSR課題の見える化」を提言させて頂きました。

昨年の提言を受け止めていただけたのでしょうか、報告書では、バリューチェーンの特集を組んでいただけたことに感謝申し上げます。清水会長からのメッセージでも、今後、貴社における石油枯渇という最大のリスクへの対策や環境配慮型製品の開発など、サステナブルな施策を積極的に取り組んでいることが見受けられました。また、最近の話題になっている働き方改革についても、上司と部下の垣根を超えた「言える化」という生産性向上への活動も見られ、まさに、国内の社会課題である少子高齢化への対策を開始しているのを実感いたしました。この取り組みは今後の貴社の原動力になってくるものと確信しています。また、昨年指摘しました「中期経営計画とCSRの一体化」

を感じる部分が垣間見られました。環境問題の中で、貴社が「CO₂排出量の削減」「産業廃棄物の削減」「化学物質の管理」にプライオリティを置いていることを理解できました。今回は環境分野のマテリアリティを示されましたが、次回の中期経営計画では、CSR全体における明確な指標を盛り込むことも検討すべきでしょう。

今見てきたように、今年はSDGsを意識した報告書になっていましたが、今後、更に貴社らしさを伝えるために、来年に向けて2点提言させて頂きたいと思います。1点目は、今夏の異常気象に見られるように環境問題への対策は喫緊の課題となってくるでしょう。常盤社長のメッセージでも、最近では、外食企業自らがプラスチック規制を宣言するなど、企業側でも積極的に表明しています。また、CDPやSBT、RE100等の気候変動問題への対応開示、再生エネルギーの推進、CO₂削減に向けてのイニシアティブに参加する企業が増えているのもその兆候でしょう。貴社でも環境への具体的な取り組みを打ち出すべきではないでしょうか。

2点目は、CSR経営からサステナビリティ経営へと更に大きな一歩を踏み出すべきだと思います。現在、多くの企業ではSDGsに取り組む意欲は拡大していますが、本質的に経営と統合しているかといえばまだまだ進んでいません。今回の報告書でも、SDGsは示していますが、17の目標を既存の事業や商品に割り当てているだけの印象を受けました。もう一歩踏み込んで、「アウトサイド・イン」の考え方を取り入れて、貴社がどのような社会課題や環境問題を重要と考えていて、それに対して貴社の強みでどのように解決をしていくのかを示されてみたらいかがでしょうか。課題を起点にして、貴社の事業や商品を再整理することができるはずですよ。おそらくそれが持続可能な社会を創ることにつながりますし、貴社が持続可能な企業へと発展していくことにつながると考えられます。来年の報告を楽しみにしております。

有識者の意見を受けて

リケンテクノス株式会社 代表取締役 社長執行役員 **常盤 和明**

2018年版のCSR報告書の特集では、「もの造り」の大きなバリューチェーンの中で当社が提供する価値、また取り組んでいる課題をご紹介しました。リケンテクノスグループがバリューチェーンの中で果たす役割をご理解いただけたら幸いです。

また、猪又様のご指摘にあるように、社会課題や環境問題を経営へ結びつけることは大変重要と考えております。現在、次期3か年中期経営計画を策定中ですが、サステナブルな経営を目指し社会に貢献できる経営計画としてまいります。

編集後記

3か年中期経営計画の最終年度となります2018年版CSR報告書を発行いたしました。企業にとって益々重要視されるSDGsとの関連性は、後半奇数ページ上部に配置しました。特に「地域の皆様とのかかわり」では、更に内容を充実させるためページ数を増やしました。そして「当社のバリューチェーン」をご理解いただくため、わかり易い図や写真を用いて表現いたしました。本報告書を通じてリケンテクノスグループの取り組みをご理解いただくとともに、本報告書への率直かつ忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

本報告書取扱部署代表者
取締役 上席執行役員 経営企画本部長 : 梶山 学之
編集メンバー
品質保証本部 マネジメントシステム部 : 井上 宏一、栗原 仁
経営企画部 企業ブランディンググループ : 吉岡 さやか、大林 美桜





リケンテクノス ウェイ

私たちは科学の力で
豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです
独創的で卓越した
樹脂素材の配合加工技術で
企業と人と社会に
新たな価値と喜びを提供し続けます

We are a challenger
that harnesses the power of science
to improve the quality of life
and create a safe, affluent society.
We continuously provide new value and satisfaction
to people, companies and society
through our original and superior formulations
and manufacturing technologies of multiple resins.

お問い合わせ先

この報告書の内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。

リケンテクノス株式会社 経営企画部

〒101-8336

東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地 ワテラストワー

TEL:03-5297-1631 FAX:03-5297-1660

ホームページ

<https://www.rikentechnos.co.jp>

2018年9月発行

